

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	レクリエーション学Ⅱ
担当者	田中敏彦・非常勤講師
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	演習
教科書・参考書	なし

授業概要と目的 高齢化社会を迎え、作業療法士の職域としての老年期障害分野も拡大してきている。機能訓練以外にも介護予防・健康増進・肥満対策といった身体活動とともに、人生の質の向上を目指しての高齢者との関係作りができる活動としてダンスを習得する。なお、病院等で臨床経験のある作業療法士と各ダンス専門の外部講師で各回の講義を行う。
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「コンテンポラリーダンスの治療的応用①」 コンテンポラリーダンスを通して、ノンバーバルな身体表現を学ぶ。合わせてコンテンポラリーダンス特有の動きから、ストレッチ法・リラクゼーション法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の担当パートの振付を一曲通して行うことができる。 コンテンポラリーダンスの治療的応用を考えることができる。 	田中敏彦 外部講師
2				
3	後期	「ヒップホップダンスの治療的応用①」 ヒップホップダンスを通して、ダンスの基本となるステップ・リズムを学び、糖尿病の運動療法・ダイエットプログラムとしての応用を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 基本となるステップ・振付を一曲通して行うことができる。 ヒップホップダンスの治療的応用を考えることができる。 	田中敏彦 外部講師
4				
5	後期	「コンテンポラリーダンスの治療的応用②」 コンテンポラリーダンスを通して、ノンバーバルな身体表現を学ぶ。合わせてコンテンポラリーダンス特有の動きから、ストレッチ法・リラクゼーション法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 基本となるステップ・振付を一曲通して行うことができる。 ヒップホップダンスの治療的応用を考えることができる。 	田中敏彦 外部講師
6				
7	後期	「コンテンポラリーダンスの治療的応用③」 コンテンポラリーダンスを通して、ノンバーバルな身体表現を学ぶ。合わせてコンテンポラリーダンス特有の動きから、ストレッチ法・リラクゼーション法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 基本となるステップ・振付を一曲通して行うことができる。 ヒップホップダンスの治療的応用を考えることができる。 	田中敏彦 外部講師
8				
9	後期	「コンテンポラリーダンスの治療的応用④」 コンテンポラリーダンスを通して、ノンバー	<ul style="list-style-type: none"> 基本となるステップ・振付を一曲通して行うことができる。 	田中敏彦 外部講師

10		バルな身体表現を学ぶ。合わせてコンテンポラリーダンス特有の動きから、ストレッチ法・リラクゼーション法を学ぶ。	・ヒップホップダンスの治療亭応用を考えることができる。	
11	後期	「ヒップホップダンスの治療的応用②」 ヒップホップダンスを通して、ダンスの基本となるステップ・リズムを学び、糖尿病の運動療法・ダイエットプログラムとしての応用を学ぶ。	・基本となるステップ・振付を一曲通して行うことができる。 ・ヒップホップダンスの治療亭応用を考えることができる。	田中敏彦 外部講師
12				
13	後期	「コンテンポラリーダンスの治療的応用⑤」 コンテンポラリーダンスを通して、ノンバーバルな身体表現を学ぶ。合わせてコンテンポラリーダンス特有の動きから、ストレッチ法・リラクゼーション法を学ぶ。	・基本となるステップ・振付を一曲通して行うことができる。 ・ヒップホップダンスの治療亭応用を考えることができる。	田中敏彦 外部講師
14				
15	後期	「まとめと試験」 ・各ダンスの発表を行う。	・各ダンスの発表後の振り返りができる。	田中敏彦 外部講師
成績評価方法		出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 実技試験（発表）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	運動学Ⅱ
担当者	角本 裕之進
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	Medicalview 動作分析バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践

<p>授業概要と目的</p> <p>作業療法分野の評価学では患者さんの動作を観察して、その中にある異常性の原因を解明する技術「動作分析」が求められている。</p> <p>本授業では基本動作（臥位・座位・立位・立ち上がり・着座・歩行）に関して、正常運動のメカニズムの理解、そして異常運動を正しく観察すること、原因を推測することを目的とする。</p> <p>また日常生活活動（以下ADL）に関しても動作分析が記載できるようにする。</p> <p>なお、作業療法士として臨床経験のあるものが、その経験を生かして授業を行う。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「オリエンテーション」 「動作分析・動作観察とは」 ・動作分析と動作観察の違いを理解する	「動作分析・動作観察とは」 ・動作分析とは何か述べる ・動作観察とは何か述べる ・制限因子の種類について記述する ・観察すべきポイントを述べる	角本裕之進
2	前期	「動作分析のポイント」 動作分析に必要な「姿勢」について知る	「動作分析のポイント」 ・姿勢とは何か述べる ・姿勢とは何か調べる ・矢状面、前額面の違いについて述べる ・スティックピクチャーとは何か述べる	角本裕之進
3	前期	「背臥位の動作分析」 背臥位を観察し、その特徴を習得する	「背臥位の動作分析」 ・背臥位の特徴を述べる ・背臥位の観察するポイントを述べる ・背臥位の状態を実際に見せる ・観察した内容を列記する ・背臥位時の姿勢筋緊張の程度を触診する	角本裕之進
4				
5	前期	「寝返りの動作分析」 寝返りを観察し、その特徴と異常動作を列記する技術を習得する	「寝返りの動作分析」 ・寝返りの正常メカニズムを知る ・第1相～第3相について自身で模倣する ・各相で重要な筋を記述する ・観察した動作を記述することができる	角本裕之進
6				

7	前期	「起き上がりの動作分析」 起き上がりを観察・分析し、その特徴と異常動作を記述する技術を習得する	「起き上がりの動作分析」 ・起き上がりの正常メカニズムを知る ・第1相～第4相について自身で模倣する ・オンエルポー・オンハンドの違いを述べる ・各相で重要な筋を記述する ・観察した動作を分析し、記述することができる	角本裕之進
8				
9	前期	「座位の動作分析」 座位の観察を行い、特徴を記述することができる	「座位の動作分析」 ・座位を観察する要点を述べる ・静的座位、動的座位の違いについて述べる ・支持基底面とは何か調べる ・座位の筋緊張を実際に触診する	角本裕之進
10				
11	前期	「立位の動作分析」 立位の観察を行い、特徴を記述することができる	「立位の動作分析」 ・立位を観察する要点を述べる ・立ち直り反応・保護伸展反応を模倣することができる ・立位の筋緊張を触診する ・観察した立位の特徴を予測する	角本裕之進
12				
13	前期	「立ち上がり・着座の動作分析①」 立ち上がり・着座のメカニズムを理解する	「立ち上がり・着座の動作分析①」 ・立ち上がりのメカニズムを知る ・立ち上がりの各相を模倣する ・着座の各相を模倣する ・スタビリゼーションストラテジーについて述べる ・モーメンタムストラテジーについて述べる	角本裕之進
14				
15	前期	「立ち上がり・着座の動作分析②」 立ち上がり・着座のメカニズムを理解し、観察した特徴を記述することができる	「立ち上がり・着座の動作分析②」 ・観察した動作を各相に分けて記述する ・観察した動作を模倣することができる ・異常動作の原因を推論する	角本裕之進
16				
17	前期	「歩行動作の動作分析①」 歩行の立脚相を理解する	「歩行動作の動作分析①」 ・歩行とは何か調べる ・歩行率、歩行比とは何か述べる ・ステップ、ステップ長さの違いについて述べる ・立脚相を5相に分け模倣する ・イニシャルコンタクト、ローディングレスポンス、ミッドスタンス、ターミナルスタンス、プレスウィングの特徴を述べる ・ロッカー機能について述べる	角本裕之進
18				
19	前期	「歩行動作の動作分析②」 歩行の遊脚相を理解する	「歩行動作の動作分析②」 ・遊脚相を3相に分け模倣できる	角本裕之進

20			<ul style="list-style-type: none"> ・遊脚相のメカニズムを述べる ・ウィンドラスメカニズムについて述べる 	
21	前期	「食事の動作分析」 ・食事動作を観察し、動作観察したものを記述することができる ・動作制限の原因を推論する	「食事の動作分析」 ・食事動作に必要な運動要素を述べる ・食事動作を細分化することができる ・実際の食事動作を行う ・観察した内容を記載する	角本裕之進
22				
23	前期	「更衣の動作分析」 食事動作を観察し、動作観察したものを記述することができる ・動作制限の原因を記述する技術を知る	「更衣の動作分析」 ・更衣の着脱を実際に行う（参加する） ・衣服の部位を述べる ・片麻痺患者の更衣方法を実施する ・観察した動作を具体的に記述する	角本裕之進
24				
25	前期	「排泄の動作分析」 排泄動作を観察し、観察したものを記述することができる ・動作制限の原因を記述する技術を知る	「排泄の動作分析」 ・排尿、排便について調べる ・排泄動作の動作手順を述べる ・排泄動作の模倣を実施する ・観察した動作に関して記述する ・動作制限の原因を推測する	角本裕之進
26				
27	前期	「入浴の動作分析」 入浴動作を観察し、観察したものを項目に分け、記述することができる	「入浴の動作分析」 ・入浴動作の特徴を述べる ・入浴動作の運動項目を具体的に述べる ・観察した入浴動作の特徴を列挙する	角本裕之進
28				
29	前期	「整容の動作分析」 整容動作を観察し、観察したものを項目に分け、記述することができる	「整容の動作分析」 ・整容動作の運動項目を具体的に述べる ・観察した入浴動作を、運動項目に沿って記述する	角本裕之進
30	前期	まとめと試験 実際の映像を元に動作分析を行い、記述する 動作分析によって推測された異常動作の原因を推測する技術を修得する	本授業で学んだ、正常メカニズムを理解し、比較することで異常動作の分析が可能になる。 異常動作の原因を推測する	角本裕之進
成績評価方法		出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 基本動作等の映像を見て動作分析を行う筆記試験（100 点）、60 点以上を合格とする。		
準備学習など		運動学 I の事項を理解しておくことが望ましい		
留意事項				

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	内科学
担当者	齋藤 研
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	標準理学療法学・作業療法学 内科学 第4版（医学書院）、

<p>授業概要と目的</p> <p>内科学は、臨床を行う上で、重要な科目です。作業療法士の国家試験では、出題数は少ないものの、狭く深い内容が問われています。それゆえ、疾患と症状から臨床像の理解を深めます。講義は臨床現場で経験している医師が担当します。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	オリエンテーション、 呼吸器疾患を理解する①	内科学の重要性を理解し、積極的に理解するよう努めることができる。さらに、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患などの最重要疾患について理解し、それらの特徴を述べることができる。	齋藤 研
2	前期	呼吸器疾患を理解する②	間質性肺炎や気胸などの疾患について理解し、それらの特徴を述べることができる。	齋藤 研
3	前期	循環器疾患を理解する①	虚血性心疾患やうっ血性心不全などの疾患について理解し、それらの特徴を述べることができる。	齋藤 研
4	前期	循環器疾患を理解する②	弁膜症や動脈疾患や静脈疾患などについて理解し、それらの特徴を述べることができる。	齋藤 研
5	前期	肝胆膵疾患を理解する①	ウイルス性肝炎や肝硬変などの肝臓疾患について理解し、それらの特徴を述べることができる。	齋藤 研
6	前期	肝胆膵疾患を理解する②	アルコール性肝障害や脂肪肝などの肝疾患および各種胆嚢、膵臓疾患について理解し、それらの特徴を述べることができる。	齋藤 研
7	前期	血液、代謝、内分泌、腎臓、膠原病、消化管疾患について知る①	各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。	齋藤 研
8	前期	血液、代謝、内分泌、腎臓、膠原病、消化管疾患について知る②	各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。	齋藤 研

9	前期	血液疾患を理解する	貧血、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血性疾患などについて理解し、その特徴を述べることができる。	齋藤 研
10	前期	代謝疾患を理解する	糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドローム、痛風などについて理解し、その特徴を述べることができる。	齋藤 研
11	前期	内分泌疾患を理解する	下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎疾患などについて理解し、その特徴を述べることができる。	齋藤 研
12	前期	腎臓疾患および泌尿器疾患を理解する	腎不全、ネフローゼ症候群なえおの腎臓疾患および泌尿器疾患などについて理解し、その特徴を述べることができる。	齋藤 研
13	前期	膠原病疾患を理解する	慢性関節リウマチ、SLE、皮膚筋炎などの膠原病疾患およびベーチェット病などの膠原病類縁疾患について理解し、その特徴を述べることができる。	齋藤 研
14	前期	消化管疾患を理解する	食道疾患、消化性潰瘍などの胃疾患、炎症性腸疾患や腸閉塞などの腸疾患について理解し、その特徴を述べることができる。	齋藤 研
15	前期	科目修了試験、まとめ		齋藤 研
成績評価方法		科目修了試験（100%）。 合計 100 点満点		
準備学習など				

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	神経内科学
担当者	益田 健史
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：標準理学療法学・作業療法学（専門基礎分野） 神経内科学（医学書院） 授業開始前に配布される講義プリントを使用。 講義プリント：標準理学療法学・作業療法学（医学書院）、メディカルスタッフのための 神経内科学（医歯薬出版株式会社）、内科学（朝倉書店）参照

授業概要と目的
神経内科疾患の全体像を把握し、中枢神経疾患・末梢神経疾患・筋疾患等を中心に理解を深め、その知識を身につける。 なお、講義は臨床現場で経験している医師が担当します。

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「神経疾患とは」	<ul style="list-style-type: none"> ・神経疾患の総論・全体像を把握する。 ・神経疾患の症候について理解・説明できる。 	益田 健史
2	前期	「脳血管障害」 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 一過性脳虚血発作 ▶ 脳卒中 <ul style="list-style-type: none"> ・脳出血 ・脳梗塞 ・クモ膜下出血 	<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害の分類 ・一過性脳虚血発作を理解・説明できる。 ・クモ膜下出血・脳出血・脳梗塞などを理解・説明できる。 ・その他、外傷性の硬膜外血腫や硬膜下血腫などの頭部の出血について理解・説明できる。 	益田 健史
3	前期	その他頭部の出血 <ul style="list-style-type: none"> ・硬膜下血腫 ・硬膜外血腫 		
4	前期			
5	前期	「変性疾患」 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 運動ニューロン疾患 <ul style="list-style-type: none"> ・筋萎縮性側索硬化症 ▶ 錐体外路の変性疾患 	<ul style="list-style-type: none"> ・変性疾患を理解・説明できる。 ・筋萎縮性側索硬化症などの運動ニューロン疾患を理解・説明できる。 ・パーキンソン病などの錐体外路系変性 	益田 健史

6	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・パーキンソン病 ・パーキンソン症候群 ▶ 認知症関連の変性疾患 ・Alzheimer 病 ・Lewy 小体型認知症 	<p>疾患を理解・説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Alzheimer 病などの認知症関連の変性疾患を理解・説明できる。 ・脊髄小脳変性症を理解・説明できる。 	
7	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・前頭側頭葉認知症（ピック病） ▶ 脊髄小脳変性症 		
8	前期	<p>「脱髄疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 多発性硬化症 	多発性硬化症などの脱髄性疾患を理解・説明できる。	益田 健史
9	前期	<p>「筋肉疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重症筋無力症 ・筋ジストロフィー 	重症筋無力症・筋ジストロフィーなどの疾患を理解・説明できる。	益田 健史
10	前期	<p>「末梢神経疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギランバレー症候群 	ギランバレー症候群などの末梢神経疾患を理解・説明できる。	益田 健史
11	前期	<p>「感染症疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・髄膜炎 ・脳炎、脳症 	髄膜炎・脳炎・脳症の違いと特徴を理解する。	益田 健史
12	前期			
13	前期	<p>「腫瘍性疾患」</p>	脳腫瘍の発生由来とその特徴について理解・説明できる。	益田 健史
14	前期	<p>「てんかん」</p>	2017年に大幅改定された病型分類を中心にてんかんに対する理解を深める。	益田 健史
15	前期	<p>「その他疾患類」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高次機能障害など 	その他疾患類の理解を深める。	益田 健史
成績評価方法		科目終了試験による評価判定。 試験は配布プリント内から出題します。		
準備学習など		プリントの復習。		
留意事項		授業で配布したプリントをファイルして保存する事。		

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	小児科学
担当者	益田 健史
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	講義プリント：標準理学療法学・作業療法学 小児科学第5版（医学書院）、 内科学（朝倉書院）、シンプル病理学（南江堂）参照

授業概要と目的
<p>小児の疾患と障害の特性を理解し、その知識を身につける。</p> <p>担当教員は、病院等において医師としての臨床経験を活かして授業を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	小児科学概論	小児の発育と特徴、保健について理解する。	益田 健史
2	前期	新生児・未熟児疾患	新生児・未熟児に生じる特徴的病態を理解する。	益田 健史
3	前期	先天異常と遺伝病	遺伝子・染色体異常及び、環境要因により生じる身体的異常を理解する。	益田 健史
4	前期	神経・筋・骨系疾患	中枢及び末梢性神経疾患、筋・骨系疾患の特徴を理解する。	益田 健史
5	前期	循環器疾患Ⅰ	先天性心疾患及び後天性心疾患の解剖学的構造・血行動態を理解する。	益田 健史
6	前期	循環器疾患Ⅱ	同上	益田 健史
7	前期	呼吸器疾患	小児で特徴的に認められる呼吸器疾患を理解する。	益田 健史
8	前期	消化器疾患	先天性及び後天性消化器疾患を理解する。	益田 健史

9	前期	内分泌・代謝疾患	各種ホルモンの働きを知り、代謝疾患の病態・治療を理解する。	益田 健史
10	前期	血液疾患	血球成分・血漿成分の働きを知り、小児で認められる特徴的な血液疾患を理解する。	益田 健史
11	前期	感染症	細菌・ウイルス感染症を中心に、小児に生じる代表的な感染症の診断・治療を理解する。	益田 健史
12	前期	免疫・アレルギー疾患	人体の免疫システムを知り、免疫の関わる疾患の病態・診断・治療を理解する。	益田 健史
13	前期	腎・泌尿器系疾患、 腫瘍性疾患	小児で特徴的に認められる腎疾患を理解する。 小児で特徴的に認められる腫瘍性疾患を理解する。	益田 健史
14	前期	心身症関連疾患	睡眠障害、心身医学的疾患、重症心身障害について理解する。	益田 健史
15	前期	眼科・耳鼻科的疾患 まとめ	小児に特徴的な眼科・耳鼻科的疾患を理解する。	益田 健史
成績評価方法		科目終了試験による評価判定。 試験は配布プリント内から出題します。		
準備学習など		プリントの復習。		
留意事項		授業で配布したプリントをファイルして保存する事。		

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	整形外科学
担当者	大塚嘉久
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義 自学自習
教科書・参考書	標準整形外科学 第15版 医学書院

授業概要と目的
整形外科疾患について理解を深め、チーム医療の一員としてリハビリテーションを担う作業療法士の実践に寄与することを目的とする。担当教員は、病院等において医師としての臨床経験を活かして授業を行う。

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	運動器の構造と機能（骨・筋肉・神経）	「整形外科とは」 整形外科の歴史 取り組みを知る 「骨について知る」 体内における骨の役割について知る	大塚嘉久
2	前期	運動器疾患の診察法（聞く・見る・触る・動かす）	「筋について知る」 体内における筋の役割について知る 「神経について知る」 体内における神経の役割について知る 「診察法について知る」 運動器の診察法について知る	大塚嘉久
3	前期	画像診断（レントゲン・CT・MRI・エコー）	「レントゲン・CT・MRI・エコーについて知る」 レントゲン・CT・MRI・エコー各々の特徴 長所短所を知る	大塚嘉久
4	前期	治療法（保存療法と観血的治療）	「保存療法と観血的治療」 薬物 リハビリ 手術をまなび各々の適応を知る	大塚嘉久
5	前期	外傷（骨折、脱臼、靭帯損傷など）	「骨折、脱臼、靭帯損傷」 骨折、脱臼、靭帯損傷をまなび各々の適応を知る	大塚嘉久
6	前期	脊椎疾患	「頸椎 胸椎 腰椎」 頸椎 胸椎 腰椎をまなび各々に生ずる疾患を知る 作業療法士のできる役割を学ぶ	大塚嘉久
7	前期	進行性関節疾患（変形性関節症、関節リウマチ）	「変形性関節症、関節リウマチ」 変形性関節症、関節リウマチの病態をまなび各々に対する治療法を知る	大塚嘉久

8	前期	小児整形外科疾患	「小児整形外科疾患」 小児の筋骨格系の特徴をまなび生ずる特有の疾患および治療法を知る	大塚嘉久
9	前期	骨軟部腫瘍	「骨腫瘍、軟部腫瘍」 骨腫瘍、軟部腫瘍の病態をまなび各々に対する治療法を知る	大塚嘉久
10	前期	関節疾患 1：上肢	「肩関節、肘関節」 肩、肘の特徴をまなび生じやすい病態およびこれに対する治療法を知る 作業療法士のできる役割を学ぶ	大塚嘉久
11	前期	関節疾患 2：下肢	「股関節、膝関節、足関節」 股、膝、足の特徴をまなび生じやすい病態およびこれに対する治療法を知る	大塚嘉久
12	前期	手の外科、末梢神経障害	「手関節、手指関節」 手関節、手指関節の特徴をまなび生じやすい病態およびこれに対する治療法を知る 作業療法士のできる役割を学ぶ	大塚嘉久
13	前期	高齢者に生じやすい障害 1	「骨粗鬆症」 高齢者の骨の特徴をまなび生じやすい病態を知る	大塚嘉久
14	前期	スポーツ	スポーツで起こりやすい外傷・障害について学び、治療法を学ぶ	大塚嘉久
15	前期	講義のまとめおよび科目修了試験	「14回の授業のまとめ」 整形外科の役割を考える 「科目修了試験」(授業にちゃんと参加すれば試験対策は不要な内容です)	大塚嘉久
成績評価方法		筆記試験 100 点 但し 小テスト 授業への取り組み 11 回以上の出席 による点数の増減あり		
準備学習など		臨床科目が増えている時期ですので 就職活動だと思って 興味をもてる学科を見つけてください。整形外科であればうれしいですが。		

学科・年次	作業療法科 2年次	開講期間	前期
科目名	薬理学		
担当者	大野 貴也		
単位数 (時間数)	1 単位 (15 時間)	履修方法	講義・グループワーク
教科書・参考書	リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学		

授業概要
前半では、薬の区分や法律、管理方法、および薬が体内でどのように動き（薬物動態）、作用するのかという基本原則を学ぶ。後半では、作業療法士国家試験の内容に重きを置き、各疾患の治療薬の作用機序と、リハビリテーション実施時のリスク管理（副作用によるふらつき、血圧変動、骨折リスク等）について詳しく学習する。 薬剤師としての知見を活かし、実際の臨床現場で必要とされる生きた知識を生かして講義を行う。
授業の目的 (意義)
医療従事者として、薬の基礎知識の習得を目標とする。
関連する学科の DP
・OT として必要な知識を修得している。 ・多職種と連携・協働できる知識を身につけている。

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SB0s)	担当者
1	薬理の基礎・医薬品の管理	薬の区分 (処方薬・劇薬・麻薬等)、法律、管理方法を学ぶ。受容体の機序を通じた薬の作用を理解する。	大野 貴也
2	薬物動態学	薬の体内動態 (吸収・分布・代謝・排泄) を学ぶ。高齢者の特性や副作用発現の仕組みを理解する。	大野 貴也
3	神経系① (末梢・筋・脳)	自律神経系、筋弛緩薬・抗痙縮薬、抗てんかん薬。脳血管障害 (脳梗塞等) の薬を理解する。	大野 貴也
4	神経系② (運動・精神科)	抗パーキンソン病薬。抗精神病薬、抗うつ薬、睡眠薬、認知症薬を学ぶ。錐体外路症状を理解する。	大野 貴也
5	循環器・呼吸器の薬	降圧薬、心不全・不整脈治療薬、抗血栓薬、喘息治療薬を学ぶ。運動時の血圧・心拍数への影響を理解する。	大野 貴也
6	痛み・炎症・代謝の薬	NSAIDs、ステロイド、麻薬性鎮痛薬。糖尿病・骨粗鬆症薬。リハ中の疼痛管理と骨折リスクを学ぶ。	大野 貴也
7	特殊疾患 (感染・癌) と総復習	抗菌薬、抗がん剤の基礎 (副作用中心)。期末テストに向けた重要ポイントの総整理 (グループワーク)	大野 貴也
8	まとめと試験	筆記試験。これまでの講義内容 (国試頻出項目中心) の理解度を確認する。	大野 貴也
成績評価方法		期末試験の成績評価で行う。試験範囲は1-6回目までの講義内容とする	

準備学習/事後学習	講義で扱う疾患や薬物療法は多岐にわたるため、あらかじめ教科書の該当箇所の図（イラストやグラフ）に一度目を通しておいてください。視覚的なイメージを事前に持つことで、講義中のメカニズム解説や副作用のリスク管理についての理解がより深まります。
関連科目	一般臨床医学
その他（履修者へのアドバイス等）	PP を使用して教科書の図を詳しく解説します。

学科・年次	作業療法科 2年
科目名	社会保障制度論
担当者	葛谷桂司
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書 中央法規 社会保障入門 中央法規 社会保障の手引

<p>授業概要と目的</p> <p>職業リハビリテーション（就労支援）の業務において障害者、生活困窮者等社会的弱者のカウンセリング、社会保障制度の情報提供、助言、活用の提案、実践を行っている現場職員が担当する。社会保障制度とは、1. 医療保険、年金保険を代表とする保険制度 2. 児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉等で周知されている社会福祉制度 3. 疾病予防、食糧・水の安全の確保、生活環境の衛生保全を目的とした公衆衛生と大きく分類されている。これらの法が単独で成立しているのではなく、「人が生まれてから、天寿を全うするまで」の間の全てのライフサイクルに関わってくる。本講義では医療機関、福祉施設等の専門職として各法制度の理解、活用ができること。卒業後、医療・福祉各機関で活躍のために必要な知識を習得することで実践に結び付けたい。現行の社会保障制度を理解することにより 1. 対象者へ質の高いサービスを提供するために制度を理解する。 2. 所属する医療・福祉の現場で提供するサービスは社会保障に関する法、社会福祉に関する法によって制定されていることを理解する。 3. 各法は独立した法でなく、関連していることを理解し活用できるようにする。 4. 学生自身が社会人、家庭人として、各々の実生活に関係している制度、義務、権利を理解し、卒業後、社会人として、各法の遵守することも目的とする。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「我が国の社会保障制度の概要」 社会保障入門目次 「総論Ⅰ、Ⅱ」 一般目標 社会保障制度の種類を理解する。	「我が国の社会保障制度の概要」 到達目標 ① 社会保険制度の種類を挙げるができる。 ② 現代の国民生活と日本の社会保障制度の歴史を説明できる。 ③ 少子高齢化の進む日本社会で地域社会の在り方、労働の形態の変化を説明できる。 ④ 社会保障制度の変化を説明できる。 ⑤ 新しく設立された省庁と法の内容を説明できる。 ⑥ 社会福祉制度における支援の種類を挙げるができる。 ⑦ 諸外国の社会保障の現状を説明できる。	葛谷桂司
2	前期	「医療保険制度」 社会保障入門目次 各論Ⅱ「保健医療」 一般目標 ① 医療保険制度の仕組みを理解する。	「医療保険制度」 到達目標 ① 健康保険制度の加入要件について説明できる。 ② 健康保険、国民健康保険の違いを説明できる。	葛谷桂司

		② 医療保険制度の種類を理解する。	③ 健康保険制度の保険料納付、給付に関する内容を説明できる。 ④ 国民健康保険制度の加入要件について説明できる。 ⑤ 国民健康保険の制度の保険料納付、給付について説明できる。	
3	前期	<p>所得保障制度 「年金制度」と「雇用保険制度と労働者再災害補償保険制度」 社会保障入門 目次 各論Ⅲ「年金・労働保険」 一般目標 ① 年金制度の仕組みを理解する。 ② 国民年金、厚生年金の構成を理解する。 「雇用保険制度と労働者災害補償保険制度」社会保障入門 目次「各論Ⅲ 年金・労働保険」 一般目標 ① 雇用保険制度の目的を理解する。 ② 雇用保険制度の内容を理解する。 ③ 労働者災害補償保険の目的を理解する。 労働者災害補償保険の内容を理解する。</p>	<p>「年金制度」 到達目標 ① 年金制度の目的を説明できる。 ② 国民年金、厚生年金の加入要件、納付について説明できる。 ③ 年金の受給資格について説明できる。 ④ 国民年金、厚生年金の給付の種類を挙げることができる。 「雇用保険制度と労働者災害補償保険制度」 到達目標 ① 雇用保険制度の目的を説明できる。 ② 雇用保険の加入要件、事業主の義務を説明できる。 ③ 雇用保険加入労働者の権利、失業給付等の給付要件、給付の種類・内容を説明できる。 ④ 労働者災害補償保険の目的を説明できる。 ⑤ 被災者に対する給付の種類を説明できる。 認定を受けた者の社会復帰に関する内容を説明できる。</p>	葛谷桂司
4	前期	<p>「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅰ 「社会保障入門」総論⑨～⑭各論社会福祉 「社会保障の手引」 目次 「児童の福祉」 一般目標 ① 児童福祉法で保障されている児童の権利に対しての行政サービスの概要を紹介、保護者のいない児童の自立に活用できるサービス、児童虐待防止に関わる内容を理解する。 ④ ② 子ども・子育て支援制度の概要を理解する。</p>	<p>「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅰ 到達目標 ① 児童福祉法の目的を説明できる。 ② 児童の種類を挙げることができる。 ③ 児童相談所をはじめとする機関の役割を説明できる。 ④ 社会的養護の内容を説明できる。 ⑤ 子ども・子育て支援制度の概要を説明できる。 ⑥ 児童福祉施設の種類・支援内容を挙げることができる。</p>	葛谷桂司
5	前期	<p>「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅱ 「社会保障入門」目次 社会福祉各論 ⑯⑰⑱ 「社会保障の手引」 「母子及び父子並びに寡婦の福祉」 一般目標</p>	<p>「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅱ 到達目標 ① 児童虐待に関する定義・責務を説明できる。 ② ひとり親家庭の定義、ひとり親家庭への支援について説明できる。</p>	葛谷桂司

		<p>児童を取り巻く環境のうち、家庭の形態の変化、父又は母親との離死別等によりひとり親となった家庭に対して、「母子及び父子並びに寡婦福祉法」を基に提供する福祉サービス内容理解する。</p> <p>③家族形態・就労形態等の変化に伴い、「子どもの貧困」の問題がクローズアップされている。これは別単元の「生活保護受給者・生活困窮者の支援」と関連していること。子どものみの問題ではなく、その家族に対する支援内容を理解する。</p>	<p>③ 児童手当等の経済支援を挙げることができる。</p>	
6	前期	<p>「母子保健制度」</p> <p>「社会保障入門」各論 社会福祉</p> <p>⑮ 「社会保障の手引」母子保健一般目標</p> <p>①母子保健法の目的を理解する。</p> <p>②生まれる前と生まれた直後の児童および母親の健康のため、保健指導・健康診査・医療サービスを行う制度の内容を理解する。</p> <p>乳児を新生児、未熟児、低体重児で分類し、サービス提供を行っていることを理解する。</p>	<p>「母子保健制度」</p> <p>到達目標</p> <p>① 母子健康手帳の申請・交付の内容を説明できる。</p> <p>② 訪問指導の内容を説明できる。</p> <p>③ 妊産婦の訪問指導、未熟児の訪問指導、未熟児の養育医療について説明できる。</p> <p>④ 未熟児の基準を説明できる。</p> <p>⑤ 1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査の内容、事後指導について説明できる。</p> <p>⑥ 妊産婦及び乳幼児健康診査について説明できる。</p> <p>⑦ 妊産婦高血圧症候群等の療育援護について説明できる。</p> <p>⑧ B型肝炎母子感染事業の内容を説明できる。</p> <p>⑨ 先天性代謝異常等検査事業の内容を説明できる。</p> <p>マタニティマークをとおした「妊産婦にやさしい環境づくり」の推進について説明できる。</p>	葛谷桂司
7	前期	<p>「生活保護制度と生活困窮者の支援」「社会保障入門」目次各論社会福祉①～③</p> <p>「社会保障の手引」生活保護、生活困窮者等の支援一般目標</p>	<p>「生活保護制度と生活困窮者の支援」</p> <p>到達目標</p> <p>① 生活保護法の法的根拠を説明できる。</p> <p>② 最低生活保障と自立助長を説明できる。</p> <p>③ 生活保護の基本原理を説明できる。</p>	葛谷桂司

		<ul style="list-style-type: none"> ① 生活保護制度の法的根拠を理解する。 ② 生活保護制度の内容を理解する。 ③ 生活困窮者自立支援法の内容を理解する。 ④ 婦人保護事業の内容を理解する。 ⑤ 災害救助法の内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 生活保護の基本原則を説明できる。 ⑤ 生活保護の種類を挙げることができる。 ⑥ 保護の実施機関と保護の実施について説明できる。 ⑦ 被保護者の責務を説明できる。 ⑧ 不正受給、不適正受給対策について説明できる。 ⑨ ワークフェアとソーシャルインクルージョンについて説明できる。 ⑩ 生活保護法に規定されている保護施設の種類とサービスの内容を説明できる。 ⑪ 生活困窮者自立支援法の概要を説明できる。 ⑫ 生活困窮者自立支援法に規定されている支援事業の内容を説明できる。 ⑬ 婦人保護事業の実施機関、実施主体を説明できる。 ⑭ 災害救助法の目的を説明できる。 ⑮ 災害救助の種類を説明できる。 ⑯ 災害救助法に規定されている強制権を説明できる。 <p>日本赤十字社の役割を説明できる。</p>	
8	前期	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅰ」 「社会保障入門」各論 社会福祉 19～25 「社会保障の手引」「障害者の保健福祉」 一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 障害者基本法の内容を理解する。 ② 障害者差別に関する規定を理解する。 ③ 障害の法規定を理解する。 ④ 障害者（児）支援に関する行政機関のサービス提供の内容を理解する。 ⑤ 障害児の保健福祉について理解する。 	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅰ」 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 障害者基本法の概要を説明できる。 ② 差別禁止に関する内容を説明できる。 ③ 障害種類（身体障害、知的障害、精神障害、発達障害）を説明できる。 ④ 障害認定と障害者手帳の申請から交付の流れを説明できる。 ⑤ 身体障害者更生相談所の業務を説明できる。 ⑥ 知的障害者更生相談所の業務の内容を説明できる。 ⑦ 精神保健福祉センターの業務の内容を説明できる。 ⑧ 児童相談所の障害児に対する業務の内容を説明できる。 <p>障害児施設の種類を説明できる。</p>	葛谷桂司
9	前期	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅱ」 「社会保障入門」各論 社会福祉 19～25 「社会保障の手引」「障害者の保健福祉」 一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「障害者の日常生活及び社 	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅱ」 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する法律」（以下障害者総合支援法）の目的、理念を説明できる。 ② 障害者総合支援法に規定されている行政の役割を説明できる。 	葛谷桂司

		<p>会生活を総合的に支援する法律」(以下障害者総合支援法)の内容を理解する。</p> <p>② 障害者総合支援法に基づく支援内容を理解する。 障害者虐待の問題を理解する。</p>	<p>③ 障害者総合支援法に規定されているサービス受給のための申請から認定の流れを説明できる。</p> <p>④ 障害者総合支援法に規定されている給付サービスの内容を説明できる。</p> <p>⑤ 障害者虐待の内容を説明できる。</p>	
10	前期	<p>「障害者(児)の保健福祉Ⅲ」 「社会保障入門」各論 社会福祉 ⑭～⑳ 「社会保障の手引」「障害者の保健福祉」</p> <p>① 発達障害者支援法の内容を理解する。</p> <p>③ 医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の概要、詳細を理解する。</p>	<p>「障害者(児)の保健福祉Ⅲ」 到達目標</p> <p>① 発達障害者支援法の主旨を説明できる。</p> <p>① 発達障害の定義を説明できる。</p> <p>② 発達障害者支援法の基本理念を説明できる。</p> <p>③ 発達障害者支援法に規定されている支援の内容を説明できる。</p> <p>④ 発達障害者支援センターの実施主体、利用者について説明できる。</p> <p>⑤ 発達障害者支援センターの事業の内容を説明できる。</p> <p>⑥ 発達障害者支援センター内の職員配置について説明できる。</p> <p>⑦ 医療的ケア児と医療的ケアの説明ができる。</p> <p>⑧ 医療的ケア児とその家族に対する国、公共団体、保育所、学校の義務を説明できる</p> <p>⑥ 医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する施策を説明できる。</p>	葛谷桂司
11	前期	<p>「高齢者の保健福祉Ⅰ」 「社会保障入門」各論 社会福祉 ④～⑧ 「社会保障の手引」 高齢者の保健福祉 一般目標</p> <p>① 高齢者福祉の歴史の概要を理解する。</p> <p>② 介護保険の概要を理解する。</p> <p>③ 介護保険における支援対象者、提供サービスについて理解する</p> <p>④ 高齢者の権利擁護について理解する。 高齢者の虐待とその防止について理解する。</p>	<p>「高齢者の保健福祉Ⅰ」 到達目標</p> <p>① 現行の介護保険法成立までの変遷を説明できる。</p> <p>② 介護保険法創設について説明できる。</p> <p>③ 介護保険法の目的を説明できる。</p> <p>④ 介護保険法に規定されている保険者・被保険者について説明できる。</p> <p>⑤ 介護保険法に規定されている資格取得、喪失について説明できる。</p> <p>⑥ 保険事故について説明できる。</p> <p>⑦ 要介護状態、要支援状態認定について説明できる。</p> <p>⑧ 要介護、要支援認定について説明できる。</p> <p>⑨ 介護保険料の徴収について説明できる。</p> <p>⑩ 介護サービス提供までの流れを説明できる。</p>	葛谷桂司

			<ul style="list-style-type: none"> ⑪ 介護給付の内容を名称ごとに説明できる。 ⑫ 権利擁護の日常生活自立支援事業の内容を説明できる。 ⑬ 高齢者虐待について説明できる。 ⑭ 高齢者虐待の種類、法的措置を説明できる。 <p>介護保険法に規定されている高齢者福祉施設の種類、内容を説明できる。</p>	
12	前期	<p>「高齢者の保健福祉Ⅱ」 「社会保障入門」各論 社会福祉④～⑧ 「社会保障の手引」 高齢者の保健福祉</p> <p>一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 介護予防の内容を理解する。 ② 介護予防サービスの種類を理解する。 ③ 訪問型サービスの内容を理解する。 ④ 通所型サービスの内容を理解する。 ⑤ 一般介護予防事業の目的を理解する。 <p>一般介護予防事業の種類、内容を理解する。</p>	<p>「高齢者の保健福祉Ⅱ」 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 介護予防の目的を説明できる。 ② 介護予防サービスの種類を説明できる。 ③ 訪問型サービスの内容を説明できる。 ④ 通所型サービスの内容を説明できる。 ⑤ 一般介護予防事業の目的を説明できる。 ⑥ 一般介護予防事業の種類、内容を説明できる。 	葛谷桂司
13	前期	<p>「高齢者の保健福祉Ⅲ」 一般目標 「社会保障入門」各論 社会福祉④～⑧ 「社会保障の手引」 高齢者の保健福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 認知症施策の内容を理解する。 ② 新オレンジプランの内容を理解する。 ⑥ 共生型サービスの内容を理解する。 	<p>「高齢者の保健福祉Ⅲ」 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 認知症施策の流れを説明できる。 ② 新オレンジプランの基本的な考えを説明できる。 ③ 新オレンジプランの「七つの柱」を説明できる。 ⑦ 共生型サービスの創設の目的、介護保険サービスと障害者総合支援法との関連を説明できる。 	葛谷桂司
14	前期	<p>「特殊疾病対策」 「社会保障入門」各論Ⅱ 保健医療⑩～⑭ 「社会保障の手引」「特殊疾病対策」</p> <p>一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域保健活動で役割を担っている保健士の活動内容を理解する。 ① 日本国内で発生する感染症 	<p>「特殊疾病対策」 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 保健士の活動内容を説明できる。 ① 感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律の目的を説明できる。 ② 感染症の種類を説明できる。 ③ 予防対策に関して、行政の責務を説明できる。 ④ 発生から対策の流れを説明できる。 	葛谷桂司

		<p>対策の理解をする。</p> <p>② 難病患者・その家族に対する支援について理解する。</p> <p>③ 特殊疾病対策における行政の責務を理解する。</p>	<p>⑤ 都道府県知事の権限を説明できる。</p> <p>⑥ 感染症患者の人権の尊重について説明できる。</p> <p>⑦ 結核対策の目的、実施主体、定期健康診断について説明できる。</p> <p>⑧ 難病対策の難病の定義を説明できる。</p> <p>⑨ 難病対策の目的を説明できる。</p> <p>⑩ 特定医療費の支給内容を説明できる。</p> <p>⑪ 難病患者に対する支援策の目的、実施主体を説明できる。</p> <p>⑫ 難病相談支援センター事業の目的、支援内容を説明できる。</p> <p>⑬ 特定疾患治療研究事業の内容を説明できる。</p> <p>⑭ 特定疾患治療研究事業の対象疾患名を説明できる。</p> <p>④ 治療と給付に関する説明ができる。</p>	
15	前期	科目試験	科目試験	葛谷桂司
成績評価方法	科目試験			
準備学習など	<p>1. 講義の進め方について テキストのページの順序では講義は進めません。シラバスで必ず、確認して下さい。</p> <p>2. 準備について 次のことを準備してください。</p> <p>1. 中央法規 社会保障入門をシラバスで確認して予習すること。</p> <p>2. 中央法規 社会保障の手引は付属のインデックスを貼って、準備しておくこと。</p> <p>3. 「社会保障入門」で基本を学習し、応用として「社会保障の手引」で各法の詳細を学ぶ形式で講義を進めます。</p> <p>4. 配布する「今日の復習」は必ず翌週講義までに解いておくこと。 必ず問題を解いておくようにしてください。レポート課題を1度出します。 初めて法律用語に触れる方もいると思います。現場で活躍するために必要な内容です。そのための準備として一緒に取組みましょう。 必ず問題を解いておくようにしてください。レポートについては、1回課題を出す予定です。</p>			
留意事項				

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	作業療法概論Ⅱ
担当者	角本 裕之進 木村映美
単位数（時間数）	1 単位 （30 時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	サブノート、必要に応じてパソコン

<p>授業概要と目的</p> <p>精神障害分野では、デイリーノート・SOAP・プロセスレコードの作成が出来るようにしていく。一般的症例報告の書き方を大項目ごとに進めていき、学生個人の報告書を教員で採点していく。最終的には実習で使用する報告書の作成を提出する。実習で困らないように指導者とのやり取りも想定して取り組む。</p> <p>身体障害分野では、一般的症例報告の書き方を大項目ごとに進めていき、学生個人の作成を教員で採点していく。最終的には一般的症例報告書の作成ができ、実習で使用する報告書の作成と発表まで行う。</p> <p>なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「精神障害分野の症例報告書作成方法」 ・精神障害領域における症例報告書作成方法の流れを理解する	・症例報告の心得を学び、実習で提出する記録について学ぶ ・一般的な症例報告の流れを項目ごとに参考資料を見ながら内容を知る	木村映美
2	後期	「身体障害分野の症例報告書作成方法」 ・身体障害領域における症例報告書作成方法の流れを理解する	「身体障害分野の症例報告書作成方法」 ・身体障害領域におけるレポート作成の項目を述べる ・身体障害領域の症例報告について、参考資料を見せて流れを知る ・検討症例の情報を提示し、知らない言葉を調べる	角本裕之進
3	後期	「デイリーノート」 「SOAP」 ・それぞれの記入の仕方を理解する	・デイリーノートに記入する項目を理解し、実際作成する ・SOAPの頭文字を理解する ・客観的と主観的の区別ができる	木村映美
4	後期	「評価項目の列举」 検討症例に必要な評価項目を列举できる 評価項目を列举する根拠を述べる ことができる	「評価項目の列举」 ・提示された情報から問題とされる ADL 障害を抜粋する ・ADL 障害の原因となる機能障害を推論する ・推論した項目を立証するための項目を教科書から調べる	角本裕之進
5	後期	「プロセスレコード」 ・プロセスレコードの必要性を学び、記入の仕方を理解する	・例題を2人組になり読み上げる ・実際にあった自分の出来事を2人で会話をして SOAP を作成する	木村映美

6	後期	「精神障害分野の評価のまとめ」 ・評価のまとめを理解する	・心身の基本的機能 ・日常生活能力 ・作業遂行能力 ・対人関係能力 の4つに分けて客観的情報を分類できる ・教員がチェックして出来るまで提出をする	木村映美
7	後期	「評価のまとめ」	「評価のまとめ」 ・評価のまとめに記載する項目を述べる ・各評価結果の情報を簡潔に記述することができる ・必要な情報を選択することができる ・客観的な情報のみを記述することができる	角本裕之進
8	後期	「精神障害分野のICF」 ・評価のまとめからICFに分類する	・利点と問題点を箇条書きにしてICFへ分類し、問題の焦点化をする ・教員がチェックして出来るまで提出する	木村映美
9	後期	「統合と解釈」 ・統合と解釈の流れを理解する ・統合と解釈の作成方法を理解する	「統合と解釈」 ・統合と解釈の意味を説明できる ・問題点となるADL動作を列挙することができる ・動作障害と検査結果を関連付けることができる ・予後予測をすることができる ・原因を同定することができる	角本裕之進
10	後期	「精神障害分野の統合と解釈」 ・統合と解釈の内容を理解し、作成できる	・評価のまとめから自分の解釈を入れていき作成する ・問題点の焦点化を取り入れて統合する ・解釈の方向性と流れの資料を参考にして作成する	木村映美
11	後期	「精神障害分野の実習での症例報告書」 ・実際に臨床実習で提出する書式にて作成できる	・評価のまとめ、ICF、1番気になる問題点、治療計画、目標を出して実際に作成する	木村映美
12	後期	「短期・長期目標」 短期・長期目標の作成方法を習得する	「短期・長期目標」 ・目標設定とは何か説明できる ・長期目標を列挙することができる ・短期目標を列挙することができる ・長期目標と短期目標の関連付けができる	角本裕之進
13	後期	「治療プログラム」 治療プログラムを立案することができる 根拠のある治療プログラムが立案できる	「治療プログラム」 ・治療プログラム案を列挙することができる ・治療プログラムに対して具体的な方法を挙げることができる ・適切な段階づけができる ・治療方針に対して文献等で調べる ・治療プログラムを症例の状態や全体像に沿った工夫がなされている	角本裕之進

14	後期	「症例報告書作成」 症例報告書を作成することができる 症例報告書の作成方法を理解する	「症例報告書作成」 ・症例報告書に必要な情報を選択することができる ・症例報告書の項目に沿って列挙することができる ・1つの活動制限から統合と解釈を述べる ことができる	角本裕之進
15	後期	「症例報告書 発表」 症例報告書の発表する方法を習得する	「症例報告書 発表」 ・7分間の時間を守り発表できる ・質疑応答ができる ・発表の着目点を伝えることができる ・明瞭な声量で伝えることができる	角本裕之進
成績評価方法		出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 身障分野の評価方法は所定のルーブリック評価法を使用し採点する (50%) 精神分野の評価方法は各課題の内容・提出期限で採点する (50%) 合計 100 点		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	基礎作業学各論Ⅱ
担当者	田中敏彦
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	実習
教科書・参考書	

授業概要と目的
1年次の基礎作業学各論Ⅰで学んだ技法を基礎として、基礎作業学各論Ⅱでは「オリジナル」の作品作りを身につける。即現場で創作活動として使える技法を身につけることを目的とし、活動の身体の動き、心理的側面に与える影響を理解する。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者			
1	通年	「紙芝居作成・発表」 ・自分の生まれてから、現在に至るまでの軌跡を絵と説明文で表現し、他者に伝えることで自己理解・他者理解の重要性を理解する。	「出生から現在までを振り返る。」 ・自分の出生時、幼少時の情報収集が出来る。 ・小学校～高校（もしくは社会人）までの印象的な出来事を列挙できる。 ・それらを絵で表現し、説明を加えて反することが出来る。	田中敏彦			
2							
3	通年						
4							
5	通年						
6							
7	通年						
8							
9	通年	「塗り貼り絵作成」 ・「ぬり絵」と「貼り絵」という異なる活動の工程を合わせることで同時進行できることを理解する。	「ぬり絵」と「貼り絵」の同時作業 ・染色道具（絵具・色鉛筆・クレヨンなど）を選択し、彩色が出来る。 ・各パーツを正確に切り出し、組み合わせることが出来る。	田中敏彦			
10							
11	通年						
12							
13	通年	「貼り絵（トラウトとハコフグ）作成」 ・フォーマット化された活動を行うことで、難易度の段階付けを理解する。	フォーマット化された貼り絵作成 ・説明書に記載されている通りの色で貼り付けることが出来る。 ・各パーツを正確に切り出し、組み合わせることが出来る。 ・魚以外の背景部分を、同様の方法で作成できる。	田中敏彦			
14							
15	通年						
16							
17	通年						
18							
19	通年				「割りばし額作成」	「粗大運動と巧緻運動」	田中敏彦

20		・活動の中に含まれている粗大な運動と、巧緻な運動を理解する。	・材料となる土台を採寸通りに切り出すことが出来る。	
21	通年	・1つの土台での作成方法を体験することで、土台の大きさを変化させる応用的な知識を知る。	・土台に決められた本数の割り箸を貼り付けることができる。 ・割りばしの余分部分を鋸で切り落とすことが出来る。 ・正確にパーツの接着が出来る。	
22				
23	通年			
24				
25	通年	「スイーツデコレーション作成」 ・紙粘土の素材の特徴と手指の動き（把握・つまみ）を理解する。 ・短時間で作成できるアクティビティを知ることで、達成感の重要性を理解する。	「手指の巧緻動作」 ・道具を使用して、アイスクリームの形を作成できる。 ・作成時に使用される身体の部分を理解できる。	田中敏彦
26				
27	通年	「デコパージュ作成」 ・ケマージュ液の素材の特徴と手指の動き（把握・つまみ）を理解する。 ・短時間で作成できるアクティビティを知ることで、達成感の重要性を理解する。	「手指の巧緻動作」 ・道具を使用して石鹸デコパージュを2個作成することが出来る。 ・作成時に使用される身体の部分を理解できる。	田中敏彦
28				
29	通年	「レジンアート作成」 ・レジンの素材の特徴と手指の動き（把握・つまみ）を理解する。 ・短時間で作成できるアクティビティを知ることで、達成感の重要性を理解する。	「手指の巧緻動作」 ・道具を使用し、2個の題材を使って作品を2個作成できる。 ・作成時に使用される身体の部分を理解できる。	田中敏彦
30				
成績評価方法		出席は2/3以上の出席をもって成績評価の対象とする。 7つの作品をすべて完成させ提出すること。 提出状況と作品の完成度で評価する。(100点)		
準備学習など				

学科・年次	作業療法科・2年次	開講期間	前期
科目名	作業療法管理学		
担当者	坂上 隼大 山内太郎 田中敏彦		
単位数（時間数）	2単位（30時間）	履修方法	講義 演習
教科書・参考書	適宜講義の際に配布		

授業概要
<p>本授業では、リハビリテーションおよび作業療法を支える組織体系について学び、医療・福祉・介護領域における作業療法士の役割と機能を理解する。あわせて、作業療法実践に関連する診療報酬制度、個人情報保護、ハラスメントの種類と防止、職業倫理などについて学び、専門職として必要な管理的視点を身につける。さらに、作業療法士としてのキャリア形成や生涯学習の意義についても理解を深める。</p> <p>なお作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する</p>
授業の目的（意義）
<p>作業療法士は、対象者への直接支援だけでなく、所属組織の仕組みを理解し、多職種と連携しながら安全かつ適切に実践を行うことが求められる。本授業では、医療・福祉・介護の各領域における組織運営や制度、法令、倫理に関する基礎知識を修得し、専門職としての責任ある行動につなげることを目的とする。また、ハラスメント防止や個人情報保護など、現代の臨床・実践現場で不可欠な課題について理解し、将来的なキャリア開発を主体的に考える力を養う。</p>
関連する学科のDP
<p>DP1：専門職として必要な知識・技能・態度を身につける。</p> <p>DP2：多職種連携の中で自己の役割を理解し、協働できる。</p> <p>DP3：倫理観と責任感をもち、法令を遵守して行動できる。</p> <p>DP4：生涯にわたり学び続け、自己研鑽とキャリア形成ができる。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「職能団体」 OT 協会と県士会の目的と活動を理解できる。	「協会と県士会の目的と役割」 OT 協会と県士会の目的と役割を説明できる。	田中敏彦
2	前期	「作業絵療法参加型実習」 作業療法参加型実習の流れを理解できる。	「見学-模倣-実施」 臨床実習における経験の方法と流れを説明することができる。	田中敏彦
3	前期	リハビリテーション・作業療法部門の組織運営・管理総論①	医療・地域における作業療法士のありかた、法人、組織、運営とは何かを理解する。	坂上 隼大
4	前期	リハビリテーション・作業療法部門の組織運営・管理総論②	診療報酬制度、ハラスメントを理解する。また、病院におけるハラスメントと社会で起きるハラスメントをそれぞれ理解する。	坂上 隼大

5	前期	組織マネジメント、育成マネジメントの方法	「PDCA サイクルと OODA サイクル」 病院・施設という組織の中で自身がどのように動いていけばよいのかをフレームワークを通じて理解する。	坂上 隼大
6	前期	作業療法士におけるキャリア開発①（グループワーク）	作業療法士の資格認定制度の理解。 作業療法士としてどのようなキャリアがあるのかを制度も含めて考察する。	坂上 隼大
7	前期	作業療法士におけるキャリア開発②（グループワーク）	作業療法士としてどのようなキャリアがあるのかを制度も含めて考察し発表する。	坂上 隼大
8	前期	リスクマネジメントについて学ぶ①	グループにて職場におけるリスクには、何があるかを考え列挙することができる。 インシデントやアクシデントとは何か答えることができる	山内太郎
9	前期	リスクマネジメントについて学ぶ②	苦情対応について、いろいろな苦情の実例を聞き、対処方法を考え発表することができる	山内太郎
10	前期	経営管理について学ぶ	経営とは何かを答えることができる 人件費率など経営に必要な用語や収益がどのような流れで、給与に代わるのかを知ることができる	山内太郎
11	前期	ティーチングとコーチングについて学ぶ①	ティーチングとは何か答えることができる コーチングとは何か答えることができる	山内太郎
12	前期	ティーチングとコーチングについて学ぶ②	理想的なティーチングとは 理想的なコーチングとはについてグループで考えることができる	山内太郎
13	前期	ティーチングとコーチングについて学ぶ③	グループで考えた理想的なティーチング、 コーチングを発表することができる①	山内太郎
14	前期	ティーチングとコーチングについて学ぶ④	グループで考えた理想的なティーチング、 コーチングを発表することができる②	山内太郎
15	前期	「まとめと試験」 本講義の概略を説明し、理解度を 確認する。	各講義の重要ポイント及び理解度について 国家試験などを利用して書面で説明できる。	田中敏彦 山内太郎 坂上隼大

成績評価方法	本試験（坂上 50 点+山内 50 点）にて成績評価する。合計 100 点
準備学習/事後学習	事後学習では国家試験にもでてくるハラスメントやマネジメント、報酬体系について配布する資料をしっかりと読み実習に備えてください。
関連科目	なし。
その他（履修者へのアドバイス等）	国家試験に出てくる問題に対しての学習でもありますが、臨床に出てから役立つ知識がたくさん授業で出てきますので覚えるのではなく理解ができるとよりよい社会人生活へとシフトできると思っています。

学科・年次	作業療法科・2年次
科目名	老年期障害評価学
担当者	角本 裕之進 本多 亜希子
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	・サブノート（毎回配布）

<p>授業概要と目的</p> <p>作業療法士が臨床で必ず出会う「高齢者」について、様々な面からアプローチし医療的な対応のポイントを習得する。リハビリテーションを行う前に知っておかなければならない「高齢者に関する医学的知識」を整理し、そのうえで作業療法士の行う評価法に触れていく。また認知症のリハビリテーションについても作業療法士に期待される部分は大きく、必須の知識について整理し理解を深める。</p> <p>なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「高齢者の特徴」① ・老化と加齢の違いについて理解する。 ・高齢者の精神面・身体面の特性について理解する。	「高齢者の生理的・身体的特徴」① ・老化 ・循環器の加齢変化 ・呼吸器系の加齢変化 ・消化器系の加齢変化 ・腎機能の加齢変化 などについて、個別・具体的な数値とともに学習し、説明できる。	本多 亜希子
2	通年	「高齢者の特徴」② ・老化と加齢の違いについて理解する。 ・高齢者の精神面・身体面の特性について理解する。	「高齢者の生理的・身体的特徴」② ・血液および造血系の加齢変化 ・神経系の加齢変化 ・感覚機能の加齢変化 ・運動器系の加齢変化 などについて、個別・具体的な数値とともに学習し、説明できる。	本多 亜希子
3	通年	「認知症」① ・認知症の評価方法を習得する前に、認知症に関する基本事項について学習し、理解する。	「認知症の基本」 ・認知症の定義 ・原因疾患 ・治療可能な認知症 ・認知症の中核症状 ・認知症の周辺症状 ・軽度認知障害 について理解し、説明できる。	本多 亜希子
4	通年	「認知症」② ・認知症の評価方法を習得する前に、認知症に関する基本事項について学習し、理解する。	「4大認知症」 ・Alzheimer型認知症 ・Lewy小体型認知症 ・前頭側頭型認知症 ・脳血管性認知症	本多 亜希子

			について理解し、説明できる。	
5	通年	「認知症の評価」① 認知症の評価方法について、知識と技術を知り、理解する。	「認知症の評価」 ・認知症の評価方法：総論 ・HDS-R ・MMSE-J について評価を実施し、理解できる。	本多 亜希子
6	通年	「認知症の評価」② 認知症の評価方法について、知識と技術を知り、理解する。 「老年期における評価 高齢者の評価方法について、知識と技術を知り、理解する。	「認知症の評価」 ・CDR ・FAST ・FAB について理解し、説明できる。 「老年期における評価」 ・障害高齢者の日常生活自立度 ・認知症高齢者の日常生活自立度判定基準 ・興味チェックリスト について理解し、説明できる	本多 亜希子
7	通年	老年期の評価方法① 老年期分野で使用する高次脳機能障害に対する各評価の目的を説明することができる	高次脳機能評価① ・CAT ・BIT ・RBMT ・BADS ・SPTA ・VPTA ・各評価の目的を述べることができる ・各評価の説明をすることができる	本多 亜希子
8	通年	CTとMRIについて① CTやMRIのメカニズムについて理解する	「CTとはなにか」 CTのメカニズムを述べることができる CTの特徴を述べることができる スライドの部位を述べることができる	角本 裕之進
9	通年	CTとMRIについて② CTやMRIのメカニズムについて理解する	「MRIとはなにか」 MRIのメカニズムを述べることができる MRIの特徴を述べることができる 各スライドの部位を述べることができる	角本 裕之進
10	通年	CTとMRIについて③ 様々なCT、MRI所見を理解、解釈する	「CTで理解すべき所見」 CTより脳出血部位を述べることができる 損傷部位で生じる可能性がある、障害名を答えることができる	角本 裕之進
11	通年	CTとMRIについて④ 様々なCT、MRI所見を理解、解釈する	「MRIで理解すべき所見」 MRIより脳梗塞部位を述べることができる 損傷部位で生じる可能性がある、障害名	角本 裕之進

			を答えることができる	
12	通年	<p>老年期の評価方法②</p> <p>老年期分野で使用する高次脳機能障害に対する各評価の目的を説明することができる</p>	<p>高次脳機能評価②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CAT ・ BIT ・ RBMT ・ BADS ・ SPTA ・ VPTA <p>・ 各評価の目的を述べるができる</p> <p>・ 各評価の説明をすることができる</p>	本多 亜希子
13	通年	<p>老年期の評価方法③</p> <p>老年期分野で使用する高次脳機能障害に対する各評価の目的を説明することができる</p>	<p>高次脳機能評価③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CAT ・ BIT ・ RBMT ・ BADS ・ SPTA ・ VPTA <p>を実施することができる</p>	本多 亜希子
14	通年	<p>老年期の評価方法④</p> <p>老年期分野で使用する高次脳機能障害に対する各評価を実施することができる</p>	<p>高次脳機能評価④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CAT ・ BIT ・ RBMT ・ BADS ・ SPTA ・ VPTA <p>を実施し、結果を報告できる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各項目の結果より推論することができる ・ 各項目の結果を基に、問題点を列挙することができる 	本多 亜希子
15	通年	<p>「まとめと試験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「高齢者の心身の変化」及び「認知症の基本」「認知症の評価」について総まとめを行い、基本用語の確認を行い、理解する。 	<p>「まとめと試験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「高齢者の心身の変化」及び「認知症の基本」「認知症の評価」について知識を整理し、基本用語の確認を行う。また、国家試験の過去問題に触れ、どのようなことが重要事項なのか説明できる。 	本多 亜希子
成績評価方法		<p>出席点 10 点</p> <p>筆記試験 90 点</p> <p>合計 100 点</p>		
準備学習など		特になし		

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	身体障害評価学Ⅱ
担当者	角本 裕之進
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	標準作業療法学 作業療法評価学

<p>授業概要と目的</p> <p>作業療法評価とは、目標を達成するための効果的な治療計画を立てるために明確な障害像を把握することであるとされ、作業療法を実施するにあたり評価は欠かすことはできない。本授業では特に身体障害領域に関する作業療法評価の習得を目的とする。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「オリエンテーション」 「作業療法評価とは」 ・作業療法評価の内容を理解する ・作業療法評価の流れを理解する ・	「評価とは」 ・作業療法評価の目的を列記する ・作業療法評価時期について述べる ・各情報の種類（基本情報、医学的情報、他部門情報）を述べる ・各評価方法の種類（観察、面接、検査、測定）を述べる ・統合と解釈、治療目標、治療プログラムについて述べる	角本裕之進
2		「バイタルサインについて」 ・バイタルサインの概要を理解する ・意識レベルの評価、血圧測定技法を身につける	「バイタルサインについて」 ・バイタルサインとは何か述べる ・意識の種類について述べる ・JCSを実施する ・触診可能な動脈を触れる ・血圧を測定する	
3	前期	「ブルンストロームステージについて」 ・ブルンストローム検査技法を身につける ・脳卒中片麻痺の回復段階を理解する	「ブルンストロームステージについて」 ・BRSの段階を述べる ・BRS各レベルについて模倣できる ・屈筋共同運動と連合反応の違いを調べる ・BRS検査を学生同士で実施する	角本裕之進
4				
5	前期	「腱反射について」 腱反射の検査技法を身につける 腱反射の目的を理解する	「腱反射について」 ・腱反射の特徴と意義を述べる ・錐体路障害と反射弓の違いを調べる ・イエンドラシック法とは何か述べる ・打腱器の操作を熟練する ・検査における留意点を述べる ・検査する筋肉を列記することができる ・結果の記録方法を説明する	角本裕之進

6		「病的反射について」 病的反射の検査技法を身につける 病的反射の目的を理解する	「病的反射について」 ・腱反射の特徴と意義を述べる ・病的反射の項目を述べる ・病的反射の検査方法を模倣する ・結果の記録方法を説明する	角本裕之進
7	前期	「立ち直り反応について」 立ち直り反応の検査技法を身につける	「立ち直り反応について」 ・反射と反応の違いについて述べる ・立ち直り反応の種類について述べる ・立ち直り反応について模倣する ・立ち直り反応の検査を実施する	角本裕之進
8		「平衡反応について」 平衡反応の検査技法を身につける	「平衡反応について」 ・重心移動の大きさによる姿勢制御の戦略について述べる ・保護伸展反応を模倣する ・保護伸展反応の検査を実施する ・FBSを実施する ・FRTを実施する	角本裕之進
9	前期	「感覚検査について」 ・感覚検査の検査技法を身につける ・感覚に関する伝導路を理解する	「感覚検査について」 ・感覚と知覚の違いについて述べる ・感覚評価の意義を列記する ・感覚神経の伝導路を記述する ・感覚検査の判定基準を述べる ・各感覚検査を模倣・実施する ・検査器具の名称を述べる	角本裕之進
10				
11	前期	「STEFについて」 ・STEFの検査技法を身につける	「STEFについて」 ・実施に関する注意点を述べる ・検査をする点の観察要点を述べる ・検査の説明ができる ・各項目の模倣・実施する	角本裕之進
12		「協調性検査について」 協調性の検査技法を身につける		
13	前期	「筋緊張検査について」 ・筋緊張検査の技法を身につける ・筋緊張に関わる用語を理解する	「筋緊張検査について」 ・筋緊張検査の意義と目的を述べる ・筋緊張亢進と低下の違いを述べる ・痙縮と固縮の違いを説明できる ・錐体路障害と錐体外路障害の違いを説明できる ・主観的検査で視診することができる ・MASテストを模倣・実施する ・ADLの影響を述べる	角本裕之進
14		「脳神経検査について」 ・脳神経検査の技法を身につける ・		

15	前期	<p>「まとめと試験」 身体障害領域に関する作業療法評価を理解する</p>	<p>「まとめと試験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体障害領域における作業療法評価を実施できる ・各評価の検査目的を述べる ・正しい方法と、安全に配慮して実施する 	角本裕之進
成績評価方法		<p>出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 実技試験（100 点）を実施し、60 点以上を合格とする。 評価方法は所定のルーブリック評価法を使用し採点する</p>		
準備学習など		<p>脳卒中に関する知識を習得しておく 解剖・生理学を復習しておくこと</p>		

学科・年次	作業療法科・2年次
科目名	精神障害治療学Ⅰ
担当者	木村映美
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	グループワークと講義
教科書・参考書	・サブノート（毎回配布） ・精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 中央法規

授業概要と目的
精神科における各疾患の理解とともに、それぞれの疾患における作業療法の展開を理解する。 基本的な作業療法プログラム・援助方法を立案できる知識と技術を習得し、実際の臨床現場でのエピソードも交え精神科の治療を理解することが出来る。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「精神機能の基礎知識」① ・精神機能の構造を知る	・意識（質的、量的） ・知能（IQ） についてサブノート・教科書・国試過去問 を使用して理解を深める	木村映美
2	前期	「精神機能の基礎知識」② ・精神機能の構造を知る	・思考（思考体験・内容・思路の異常） ・知覚（視覚・聴覚・臭覚・味覚・触覚） についてサブノート・教科書・国試過去問 を使用して理解を深める	木村映美
3	前期	「精神機能の基礎知識」③ ・精神機能の構造を知る	・感情（情動、気分、情性、その他） ・意欲（亢進、減退） についてサブノート・教科書・国試過去問 を使用して理解を深める	木村映美
4	前期	「精神機能の基礎知識」④ ・精神機能の構造を知る	・行動（程度、内容） ・記憶（記銘、保持、追想、再認、その他） についてサブノート・教科書・国試過去問 を使用して理解を深める	木村映美
5	前期	「精神機能の基礎知識」⑤ ・精神機能の構造を知る	・作業療法士の立場、連携 臨床現場での内容と合わせて理解を深める	木村映美
6	前期	「精神機能の基礎知識」⑥ ・精神機能の構造を知る	・OT 評価の流れ 臨床現場での内容と合わせて理解を深める	木村映美

7	前期	「統合失調症 急性期①」 ・状態像の理解 ・生じやすい問題 ・行われる治療を知る	・陽性症状を基礎知識で学んだ語句と照らし合わせ理解を深める ・実際の現場の体験を踏まえて想像しやすくなる ・OTや多職種の治療を知る	木村映美
8	前期	「統合失調症 急性期②」 ・作業活動の選択 ・環境調整 ・作業療法士の対応技術を理解する	・基本的な作業活動の内容を学び、国試過去問を解きながら理解を深める ・環境の刺激内容を知り、国試過去問を解きながら理解を深める ・妄想、幻聴の対応や声掛けの技術を知り、国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美
9	前期	「統合失調症 回復期①」 ・状態像の理解 ・生じやすい問題 ・行われる治療を知る	・陰性症状を基礎知識で学んだ語句と照らし合わせ理解を深める ・長期入院の問題点を理解する ・薬物療法と退院に向けたリハビリテーションを学ぶ	木村映美
10	前期	「統合失調症 回復期②」 ・作業療法の視点 ・OTの実践と対応技術	・問題点より利点を活用し、OTとの関係づくりの大切さを知る	木村映美
11	前期	「統合失調症 回復期③」 ・社会復帰間近の就労支援を理解する	・退院後の生活を想像できるプログラム立案を、国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美
12	前期	「気分障害 ①」 ・気分障害を理解する	・単極性うつ病、双極性障害、単極性躁病の違いを理解する（グラフを用いる） ・うつ病と躁病の特徴を基礎知識で学んだ語句と合わせて理解を深める	木村映美
13	前期	「気分障害 ②」 ・経過と予後を理解する ・うつ病、躁病の治療法を知る	・自殺の危険性の時期や再発の可能性を知る ・休養の必要性、薬物療法、精神療法を知る	木村映美
14	前期	「気分障害 ③」 ・うつ病の急性期の作業療法を知る	・うつ病の急性期の状態像を知ることによって作業の選択のポイントを理解出来る ・国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美
15	前期	「気分障害 ④」 ・うつ病の回復期の作業療法を知る	・うつ病の回復期の状態像を知ることによって作業の選択のポイントを理解出来る ・国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美
16	前期	「気分障害 ⑤」 ・躁病の急性期と回復期の作業療法を知る	・躁病の急性期と回復期の状態像を知ることによって作業の選択ポイントを理解出来る ・国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美

17	前期	「神経症」 ・「パニック障害」の特徴と作業療法を知る	・パニック障害の症状を知り、治療法を知る ・作業療法の展開を学んだ上で、国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美
18	前期	「神経症」 ・「解離性（転換性）障害」の特徴と作業療法を知る	・解離性と転換性の症状を知る ・経過、予後、治療法を学び作業療法の展開やかかわり方を理解する ・国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美
19	前期	「神経症」 ・「強迫性障害①」の特徴を知る	・強迫性障害の概念を知り、症状を理解する	木村映美
20	前期	「神経症」 ・「強迫性障害②」の作業療法を知る	・疫学や治療法を学ぶ ・作業療法での問題点を理解し作業活動の選択を学ぶ ・国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美
21	前期	「境界性パーソナリティ障害①」 ・分類や特徴を理解する	・境界性パーソナリティ障害の症状や治療法を学ぶ	木村映美
22	前期	「境界性パーソナリティ障害②」 ・作業療法の治療法やかかわりを理解する	・作業療法士のかかわりで生じる問題を例文と照らし合わせて理解する ・個別での OT と集団での OT を国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美
23	前期	「摂食障害①」 ・摂食障害の症状と病因を理解する	・摂食障害にみられる特徴を国試の過去問を解きながら理解を深める	木村映美
24	前期	「摂食障害②」 ・経過、予後、治療法を理解する ・作業療法の展開を理解する	・国試の過去問の例題を参考にして、大切な語句やかかわり方を理解することが出来る	木村映美
25	前期	「てんかん①」 ・てんかんの種類を知る	・全般発作と部分発作の違いがわかる ・全般発作の 6 つの特徴を理解する ・部分発作の 2 つの特徴を理解する	木村映美
26	前期	「てんかん②」 ・経過、予後、治療法を理解する ・作業療法の展開を理解し、かかわりのポイントを知る	・発作時の対応、薬物療法、生活指導等を学び、国試の過去問を解きながら理解を深める ・生じやすい問題点とかかわりの注意点を理解する	木村映美
27	前期	「依存症①」 ・依存症の種類を知る ・アルコール依存症と薬物依存症の違いを理解する	・精神依存と身体依存の違いを学び、離脱症状の内容等を、国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美

28	前期	「依存症②」 ・経過、予後、治療法を理解する ・依存症の作業療法を知る	・依存症の評価するポイントと問題点を理解し目標と方向性を示すことが出来る ・かかわりのポイントを、国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美
29	前期	「まとめ」 ・精神科の病気の種類が理解できる ・各疾患の特徴を理解し、作業療法の治療を知る	・統合失調症、気分障害、神経症（パニック障害・解離性転換性障害、強迫性障害、境界性パーソナリティ障害、摂食障害、てんかん、依存症、自閉症、アスペルガー、AD/HD）が出るようになる	木村映美
30	前期	「まとめと試験」 ・疾患の特徴を理解出来る ・国家試験の過去問が解けるようになる	・各疾患の特徴となる語句がつながるようになる ・試験に向けて国試の過去問を解く	木村映美
成績評価方法		授業態度・出席点 10 点 筆記試験 90 点 合計 100 点		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	精神障害治療学Ⅱ
担当者	田中敏彦・木村映美
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	適宜資料配布

<p>授業概要と目的</p> <p>精神科病院での問題点を知り、実際に治療計画を立てていく。また、グループでのプログラム立案と発表をすることで、多くの考え方や治療方法を理解する。</p> <p>アクティビティでは実際にプレーをして、精神科で行われる頻度の高いスポーツのルールや道具を理解する。</p> <p>なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「臨床現場の紹介」 ・精神科病院の概要を知り、 問題点が理解できる ・問題点から治療立案を考える	・実際の病院を知ることによって精神科の内容が 理解できる ・問題点を参考にしてグループで治療計画 を話し合う	木村映美
2				
3	後期	「治療立案作成」 ・グループで治療計画を立案し、 発表出来るようにまとめる	・グループ内で治療計画を話し合い、 目的、準備内容、治療内容、方法、リスク 管理、注意点等を細かく出す ・パワーポイントを使用し7分以内にまと める	木村映美
4				
5	後期	「治療立案発表」 ・グループで立案したプログラムの 発表をする ・臨床現場で実際に行ったプログラ ムを理解する	・グループの発表を聞いて、様々な治療プ ログラムを知る ・自分たちに無かったアイデアや工夫して いる点などを学ぶ ・教員が臨床現場で行った内容を紹介して 問題点への考え方や実際のエピソードも聞 き理解を深める	木村映美
6				
7	後期	「精神科のアクティビティ①」 ・精神科で行われる頻度の高いバ ルバレーを行う上で必要な道 具・ルールを理解する。	「バルバレーの体験」 ・バルバレーの道具・準備を理解できる。 ・バルバレーのルールを理解できる。 ・バルバレーを自分で行うことが出来る。	田中敏彦
8				
9	後期	「精神科のアクティビティ②」 ・精神科で行われる頻度の高い卓 球を行う上で必要な道具・ルール	「卓球の体験」 ・卓球の道具（通常ボールとラージボール の違い）が理解できる。	田中敏彦

10		を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 卓球のルールを理解できる。 卓球を自分で行うことができる。 	
11	後期	「対象者への接触の仕方」 「治療と社会化」 ・患者との接触の仕方の基礎知識と接触が困難な時の対応を理解する。 ・社会化の意味を理解し、精神科での治療に反映して考える。	<ul style="list-style-type: none"> 接触を拒む患者への対応策を自分で2つ以上考えることができる。 「13番目の客」の感想文として、精神科での治療における社会化の必要性を理解できる。 	田中敏彦
12	後期	「面接演習・ロールプレイ」 ・設定場面にて面接者・患者・観察者の役割を行い、面接に必要な態度を理解する。 ・設定場面にて作業療法実習生役の演技を見て、患者に対するコミュニケーションの取り方を理解する。	「面接とコミュニケーションのロールプレイ」 ・3人1組での面接のロールプレイで、面接者役・患者役・観察者役の3役を行うことができる。 ・観察者として面接者に客観的なコメントができる。 ・業療法実習生役の演技を見て、自分の場合の対応策を述べることができる。	田中敏彦 木村映美
13	後期	「コミュニケーション演習」 ・初対面の人に対して、挨拶の後に3分間適切な会話を行う方法を理解する。	「初対面の人との会話」 ・ルーブリック評価表の項目・内容を理解し、段階5の評価に必要な態度・姿勢を理解できる。	田中敏彦 木村映美
14				
15	後期	「試験とまとめ」 筆記試験を通して、各回の講義内容を理解する。	「精神障害評価学」、「精神障害治療学Ⅰ」、「精神障害治療学Ⅱ」の授業を通して、精神科作業療法の内容を理解できる。	田中敏彦 木村映美
成績評価方法		出席は2/3以上の出席をもって試験の受験を可とする。 コミュニケーション演習（28点） 筆記試験（72点）を行い、合計100点　60点以上を合格とする。		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	作業療法科・2年次
科目名	老年期障害治療学
担当者	山内太郎・田中敏彦・角本裕之進・外部講師
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	講義とグループワーク
教科書・参考書	

授業概要と目的
<p>本講義では、老年期障害に対する具体的な治療学について学ぶ。</p> <p>老年性の筋力低下など身体機能面に関して筋力テストなどの方法を知り治療に向けて考えを持てるようになる。後半の講義では、レクリエーションを利用した治療法について学ぶ。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「高齢者のアクティビティ①」 「マジック・手品の治療的応用」 手品の技法と枠組みを理解し、治療的応用の手段を考える。	・手品の演目を3種類、説明から自分で行うことができる。 ・手品の治療的応用を考えることができる。	田中敏彦 外部講師
2				
3	通年	「高齢者のアクティビティ②」 「バルーンアートの治療的応用」 風船の特性と素材の特徴を理解し、風船を立体的に組み上げる技法を学ぶ。	・バルーンアートの作品を2種類自分で作成することができる。 ・バルーンアートの治療的応用を考えることができる。	田中敏彦 外部講師
4				
5	通年	「高齢者のアクティビティ①」 「花札の治療的応用」 認知機能・身体機能の維持・改善のための麻雀の応用法を学ぶ。	「花札とその活用方法」 ・花札の道具が理解できる。 ・花札のルールを理解できる。 ・3人1組で取り組みを行うことができる。	田中敏彦
6				
7	通年	レクリエーションについて知る	レクリエーションとは何か答えることができる	山内太郎
8	通年	レクリエーション計画書について知る	レクリエーション計画書の書き方を覚えることができる	山内太郎
9	通年	レクリエーション計画書を作成する①	グループに分かれ、障害別レクリエーションの計画を立てることができる	山内太郎
10	通年	レクリエーション計画書を作成する②	グループに分かれ、障害別レクリエーションの計画を立てることができる	山内太郎
11	通年	障害を想定したレクリエーションの準備を行う①	グループごとにレクリエーションの準備をすることができる	山内太郎
12	通年	障害を想定したレクリエーションの準備を行う②	グループごとにレクリエーションの準備をすることができる	山内太郎
13	通年	障害を想定したレクリエーションの準備を行う③	グループごとにレクリエーションの準備をすることができる	山内太郎

14	通年	レクリエーションの発表をする ①	全体に向けグループで考えたレクリエーションを計画通りに発表することができる	山内太郎
15	通年	レクリエーションの発表をする ②	全体に向けグループで考えたレクリエーションを計画通りに発表することができる	山内太郎
16	通年	レクリエーションの発表をする ③	全体に向けグループで考えたレクリエーションを計画通りに発表することができる	山内太郎
17	通年	レクリエーションの発表をする ④	全体に向けグループで考えたレクリエーションを計画通りに発表することができる	山内太郎
18	通年	レクリエーションの発表をする ⑤	全体に向けグループで考えたレクリエーションを計画通りに発表することができる	山内太郎
19	通年	レクリエーションの発表をする ⑥	全体に向けグループで考えたレクリエーションを計画通りに発表することができる	山内太郎
20	通年	レクリエーションのフィードバック	レクリエーションの実施状況や課題についてフィードバックを受け改善策を考えることができる	山内太郎
21	通年	喀痰吸引について理解することができる①	講義を受け喀痰吸引に対する知識を得ることができる	鷺見三重子
22	通年	喀痰吸引について理解することができる②	講義を受け喀痰吸引の対象者像を言うことができる	鷺見三重子
23	通年	喀痰吸引について理解することができる③	講義を受け喀痰吸引の方法を言うことができる	鷺見三重子
24	通年	喀痰吸引について実践することができる①	実習を通し、喀痰吸引の準備をすることができる	鷺見三重子
25	通年	喀痰吸引について実践することができる②	実習を通し、喀痰吸引のリスクを知ることができる	鷺見三重子
26	通年	喀痰吸引について実践することができる③	実習を通し喀痰吸引をすることができる	鷺見三重子
27	通年	生活行為向上マネジメント (MTDLP) 定義について理解する 各シートについて理解する	生活行為向上マネジメントの開発過程を知る 生活行為向上マネジメントの基本方針を知る 生活行為向上マネジメント実施の流れを知る	角本裕之進

28	通年	生活行為向上マネジメント (MTDLP) 各シートについて理解する 症例を提示し各シートに記述することができる	興味関心チェックシートを使用し、面接を行えるようになる 生活行為アセスメント演習シートの項目を知ることができる 生活行為向上プラン演習シートを使用することができる	角本裕之進
29	通年	生活行為向上マネジメント (MTDLP) 症例を提示し各シートに記述することができる	症例提示の情報から生活行為の目標を挙げる 問題点を「心身機能」「活動・参加」「環境因子」に分けることができる 予後予測を挙げる 生活行為工程分析を記述することができる 治療計画を3つのプログラムに分けることができる	角本裕之進
30	通年	MTDLPを通して症例検討し発表する 症例を通し、各シートに項目を記述ができるよう習得する	各シートの整合性を確認することができる 症例に対する各目標を述べる グループにて発表することができる	角本裕之進
成績評価方法		出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 山内：最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。 出席状況・授業態度・レクリエーションの発表とレポート提出により評価を行う。		
準備学習など		各グループごとに準備をしてもらうため、次に何をやるかなどグループ間での共有が必要となる		

学科・年次	作業療法科・2年次	開講期間	後期
科目名	発達障害治療学		
担当者	坂上 隼大		
単位数（時間数）	2単位（30時間）	履修方法	講義
教科書・参考書	自閉症の人がみている世界 第一巻～第三巻 適宜講義の際に配布		

授業概要
本授業では、発達障害の中でも自閉症スペクトラム障害（ASD）および注意欠如・多動症（ADHD）を中心に、それぞれの特性理解と支援のあり方について学ぶ。DVD教材『自閉症の人がみている世界』（全3巻）を活用し、当事者の感じ方、考え方、行動の背景にある心理・認知・感覚特性への理解を深めるとともに、ADHDにみられる不注意、多動性、衝動性などの特徴についても学ぶ。さらに、作業療法士として必要な視点である生活の構造化、環境調整、強みを生かした支援について理解し、対象者理解を具体的な支援へと結びつける力を養う。
授業の目的（意義）
発達障害のある人への支援においては、行動を表面的に捉えるのではなく、その背景にある認知特性、感覚特性、注意機能の特性、心理的体験を理解することが重要である。本授業では、自閉症スペクトラム障害（ASD）および注意欠如・多動症（ADHD）に関する理解を深め、当事者の視点に立った支援の基盤を形成することを目的とする。また、生活上の困難さを軽減するための構造化や環境調整、個々の強みを生かした支援の考え方を学び、作業療法士として治療計画や個別支援計画を立案できる実践的思考力を養う。
関連する学科の DP
<p>DP1：対象者の心身機能、活動、参加および生活背景を総合的に理解する力を身につける。</p> <p>DP2：発達障害に関する基礎的知識と支援方法を理解し、作業療法の視点から適切に支援を考えることができる。</p> <p>DP3：対象者の尊厳を尊重し、その人らしさや強みを生かした支援を実践する態度を身につける。</p> <p>DP4：評価に基づいて治療計画や支援計画を立案する基礎的能力を身につける。</p> <p>DP5：専門職として多面的に対象者を理解し、根拠に基づいて支援を構築する姿勢を養う。</p>

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	自閉症スペクトラムの基本的な特性を理解し、行動の背景にある感覚・認知的特徴を説明できる。	第1回では、自閉症スペクトラム障害（ASD）および注意欠如・多動症（ADHD）の基本的な特性について学ぶ。ASDにみられる対人関係、コミュニケーション、こだわり行動などの特徴に加え、ADHDにみられる不注意、多動性、衝動性などの特徴について理解を深める。また、それぞれの行動を表面的に捉えるのではなく、その背景にある感覚・認知的特徴や注意機能の特性について考察し、当事者がどのように世界を感じ、受け取り、行動しているのかを説明できる力を養う。	坂上 隼大
2			

3	自閉症の人が安心して生活・学習できる環境要因を理解し、構造化支援や肯定的支援の意義を説明できる。	第2回では、ASD および ADHD のある人が安心して生活・学習できるための環境要因について学ぶ。生活の構造化、見通しの提示、環境調整、肯定的支援といった具体的な支援方法について理解し、それぞれの特性に応じた支援の工夫を考察する。ASD では予測可能性や感覚への配慮、ADHD では注意の向けやすさや行動調整のしやすさに着目し、支援が本人の安心感や適応行動の促進にどのようにつながるかを理解することで、構造化支援や肯定的支援の意義を説明できる力を養う。	坂上 隼大
4			
5			
6	自閉症の人の多様な語りを通して個性を理解し、作業療法士として治療計画、支援計画を立案できる。	第3回では、ASD および ADHD のある人の多様な語りや事例を通して、特性の現れ方や生活上の困難さには大きな個性があることを理解する。その上で、これまでに学んだ特性理解、環境調整、強みを生かす視点を統合し、対象者ごとのニーズに応じた支援を考える。作業療法士として、ASD や ADHD のある人に対する治療計画および支援計画を立案するための基礎的な思考力を養う。	坂上 隼大
7			
8	後期に入りましたら、お伝えします。		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
成績評価方法	本試験（坂上・ 100点）にて成績評価する。合計 100点		
準備学習/事後学習	授業の中では様々な精神障害に触れていくことが多いです。 精神障害評価学の内容を復習して、どのような疾患があるのかを復習しておいてください。		
関連科目	「精神医学」・「臨床心理学」 「精神障害評価学」 「精神障害治療学Ⅰ・Ⅱ」・「臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」等		
その他（履修者へのアドバイス等）	昨今、少子化と言われてはいますが、発達障害の割合は年々増加傾向にあります。 私たちが生活していく上でごく身近な疾患となりますので国家試験も大切ですが、一人の専門家として理解して欲しい内容です。		

学科・年次	作業療法科・2年次
科目名	身体障害治療学Ⅰ
担当者	本多亜希子
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	講義・ペアで検査の練習
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版 医学書院 ・標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学 第2版 医学書院 ・神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 改訂第3版 メディカルビュー

<p>授業概要と目的</p> <p>各疾患における作業療法を理解・実施できるよう各疾患の特徴、症状、評価法および治療・援助について学ぶ。同様に高次脳機能障害に対しても特徴、症状、評価法および治療・援助について学ぶ。</p> <p>小テストを行い、前回の授業の復習ができるようにする。</p> <p>評価の仕方においてはペアを組んで説明の仕方から実践的に行う。</p> <p>なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	<p>「オリエンテーション」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この授業の流れ、目的を知る。 <p>「脳血管障害総論①」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害の概要を知る。 	<p>「オリエンテーション」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この授業の流れ、実習に向けて、評価基準を理解する。 <p>「脳血管障害総論①」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳梗塞と脳出血の違いを理解する。 ・脳梗塞の分類、脳出血の種類を理解する。 	本多亜希子
2	通年	<p>「脳血管障害総論②」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害の症状を知る。 ・脳血管障害における代表的な評価を知る。 	<p>「脳血管障害総論②」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害の症状を理解できる。 ・脳血管障害における代表的な評価項目を挙げることができる。 	本多亜希子
3	通年	<p>「脳血管障害総論③」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害の症状を知る。 ・脳血管障害における代表的な評価を知る。 	<p>「脳血管障害総論③」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害の症状を理解できる。 ・脳血管障害における代表的な評価項目を挙げることができる。 	本多亜希子
4	通年	<p>「脳血管障害総論④」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害の症状を知る。 ・脳血管障害における代表的な評価を知る。 	<p>「脳血管障害総論④」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害の症状を理解できる。 ・脳血管障害における代表的な評価項目を挙げることができる。 	本多亜希子
5	通年	<p>「脳血管障害における急性期作業療法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドサイドでの評価を知る。 ・ベッドサイドでの作業療法を知る。 	<p>「脳血管障害における急性期作業療法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドサイドでの評価を挙げることができる。 ・ベッドサイドにおける作業療法の目的、注意点を理解できる。 	本多亜希子

6	通年	「脳血管障害におけるリスク管理、合併症」 ・合併症について知る。 ・脳血管障害における合併症を知る。	「脳血管障害におけるリスク管理、合併症」 ・合併症を挙げることができる。 ・脳血管障害における代表的な合併症と危険因子、所見を挙げることができる。	本多亜希子
7	通年	「脳血管障害における回復期作業療法」 ・回復段階に沿った訓練を知る。	「脳血管障害における回復期作業療法」 ・様々な麻痺側上肢機能訓練について理解できる。	本多亜希子
8	通年	「頭部外傷の分類」 ・頭部外傷の定義を知る。 ・頭部外傷の分類を知る。	「頭部外傷の分類」 ・頭部外傷の定義を理解できる。 ・局所性損傷とびまん性脳損傷の違いを理解できる。	本多亜希子
9	通年	「頭部外傷の障害像」 ・頭部外傷の障害像を知る。	「頭部外傷の障害像」 ・頭部外傷の障害像を理解できる。	本多亜希子
10	通年	「頭部外傷における評価・治療」 ・頭部外傷の評価を知る。 ・頭部外傷の治療を知る。	「頭部外傷における評価・治療」 ・頭部外傷の身体機能評価、認知機能評価、能力評価を挙げることができる。 ・頭部外傷における病期別の作業療法を理解できる。	本多亜希子
11	通年	「パーキンソン病の症状、重症度分類」 ・パーキンソン病の定義を知る。 ・パーキンソン病の症状を知る。 ・パーキンソン病の重症度分類を知る。	「パーキンソン病の症状、重症度分類」 ・パーキンソン病の定義を理解する。 ・パーキンソン病の症状を挙げることができる。 ・Hoehn-Yahrの重症度分類を理解できる。	本多亜希子
12	通年	「パーキンソン病の評価」 ・パーキンソン症候群を知る。 ・パーキンソン病の評価を知る。	「パーキンソン病の評価」 ・パーキンソン症候群を挙げることができる。 ・パーキンソン病の評価を挙げることができる。	本多亜希子
13	通年	「パーキンソン病の治療」 ・重症度分類別の作業療法を知る。	「パーキンソン病の治療」 ・重症度分類別の作業療法を理解できる。	本多亜希子
14	通年	「糖尿病の診断基準」 ・糖尿病の定義を知る。 ・糖尿病の診断基準を知る。 ・糖尿病の分類を知る。	「糖尿病の診断基準」 ・糖尿病とは何か説明できる。 ・糖尿病の診断基準を理解できる。 ・1型糖尿病と2型糖尿病の違いを理解できる。	本多亜希子
15	通年	「糖尿病の合併症」 ・糖尿病の合併症を知る。	「糖尿病の合併症」 ・糖尿病神経障害、糖尿病網膜症、糖尿病腎症について理解できる。	本多亜希子

16	通年	<p>「低血糖について」</p> <ul style="list-style-type: none"> 低血糖の症状を知る。 <p>「糖尿病昏睡について」</p> <ul style="list-style-type: none"> 糖尿病昏睡の分類を知る。 	<p>「低血糖について」</p> <ul style="list-style-type: none"> 低血糖を起こす原因、低血糖値、症状、対応について理解できる。 <p>「糖尿病昏睡について」</p> <ul style="list-style-type: none"> 糖尿病ケトアシドーシスと高浸透圧高血糖症候群の違いについて理解できる。 	本多亜希子
17	通年	<p>「糖尿病の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 糖尿病における作業療法での評価を知る。 <p>「糖尿病における運動療法」</p> <ul style="list-style-type: none"> 糖尿病における運動療法を知る。 	<p>「糖尿病の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 糖尿病における作業療法での評価を上げることができる。 <p>「糖尿病における運動療法」</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動強度を設定できる。 運動の禁止・中止事項を上げることができる。 	本多亜希子
18	通年	<p>「高次脳機能障害総論」</p> <ul style="list-style-type: none"> 高次脳機能障害とは何かを知る。 高次脳機能障害にみられる特徴を知る。 高次脳機能障害の症状を知る。 	<p>「高次脳機能障害総論」</p> <ul style="list-style-type: none"> 高次脳機能障害の定義を理解できる。 高次脳機能障害にみられる共通の特徴を理解できる。 高次脳機能障害を引き起こす疾患を上げることができる。 高次脳機能障害と見立てるには何を観察するのかを理解できる。 	本多亜希子
19	通年	<p>「注意障害の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の臨床症状を知る。 <p>「注意障害の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の評価を知る。 	<p>「注意障害の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の臨床症状をふまえ、注意障害の分類を理解できる。 <p>「注意障害の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の評価を上げることができる。 	本多亜希子
20	通年	<p>「注意障害の治療」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の治療の方法を知る。 <p>「注意障害評価実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の評価を実施する。 	<p>「注意障害の治療」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の治療の方法、環境調整、対応の仕方を理解できる。 <p>「注意障害の評価実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の評価を実際に説明の仕方から実施することができる。 	本多亜希子
21	通年	<p>「記憶障害の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の分類を知る。 <p>「記憶障害の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の評価を知る。 	<p>「記憶障害の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の分類を理解できる。 <p>「記憶障害の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の評価を上げることができる。 	本多亜希子
22	通年	<p>「記憶障害の治療」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の治療の方法を知る。 <p>「記憶障害評価実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の評価を実施する。 	<p>「記憶の治療」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶の治療の方法、環境調整、対応の仕方を理解できる。 <p>「記憶障害の実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の評価を実際に説明の仕方から実施することができる。 	本多亜希子
23	通年	<p>「半側空間無視の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の分類を知る。 <p>「半側空間無視の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の評価を知る。 	<p>「半側空間無視の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の分類を理解できる。 <p>「半側空間無視の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の評価を上げることができ 	本多亜希子

			る。	
24	通年	「半側空間無視の治療」 ・半側空間無視の治療の方法を知る。 「半側空間無視の評価実施」 ・半側空間無視の評価を実施する	「半側空間無視の治療」 ・半側空間無視の治療方法、環境調整、対応の仕方を理解できる。 「半側空間無視の評価実施」 ・半側空間無視の評価を実際に説明の仕方から実施することができる。	本多亜希子
25	通年	「失認の分類」 ・失認の分類を知る。 「失認の評価」 ・評価前の確認事項を知る。 ・失認の評価を知る。	「失認の分類」 ・失認の分類を理解できる。 「失認の評価」 ・評価前の確認事項を理解できる。 ・失認の評価を理解できる。	本多亜希子
26	通年	「失行症の分類」 ・失行症の一般的特徴を知る。 ・失行症の分類を知る。 「失行症の評価」 ・評価前の確認事項を知る。 ・失行症の評価を知る。	「失行症の分類」 ・失行症の分類を理解できる。 「失行症の評価」 ・評価前の確認事項を理解できる。 ・失行症の評価を理解できる。	本多亜希子
27	通年	「失語症とは」 ・失語症の定義を知る。 ・話す障害の種類を知る。	「失語症とは」 ・失語症の定義を知る。 ・話す障害の種類を知る。	本多亜希子
28	通年	「失語症のタイプ分類」 ・失語症のタイプ分類を知る。 「失語症の評価」 ・失語症の代表的な評価を知る。 「失語症患者の日常生活への援助」 ・失語症患者と接する際の留意点を知る。	「失語症のタイプ分類」 ・失語症の分類を理解できる。 「失語症の評価」 ・失語症の代表的な評価を理解できる。 「失語症患者の日常生活への援助」 ・失語症患者と接する際の留意点を挙げる ことができる。	本多亜希子
29	通年	「遂行機能とは」 ・遂行機能の定義を知る。 ・遂行機能の4つの要素を知る。 ・遂行機能障害の評価を知る。	「遂行機能とは」 ・遂行機能の定義を理解できる。 ・遂行機能の4つの要素を挙げる ことができる。 ・遂行機能障害のスクリーニング検査を実施できる。 ・それ以外の評価を挙げる ことができる。	本多亜希子
30	通年	「まとめと本試験」	「まとめと本試験」 ・講義で学習したことを小テストも踏まえて、筆記試験で確認する。	本多亜希子
成績評価方法		出席点・授業点（10%）、小テスト（20%）、本試験（70%）で評価します。 合計 100 点		
準備学習など		神経内科学、身体障害評価学Ⅰ、Ⅱで学習したことがベースとなりますのでしっかりと学習しましょう。		

学科・年次	作業療法科 2年次	開講期間	通年
科目名	身体障害治療学Ⅱ		
担当者	角本 裕之進		
単位数（時間数）	2単位（60時間）	履修方法	講義・実技
教科書・参考書	標準作業療法学 身体機能作業療法学		

授業概要
本授業では、作業療法分野の中でも整形外科疾患に対する作業療法を中心に学ぶ。臨床経験を有する作業療法士が担当し、評価から治療までの一連の流れを、演習を通して実践的に習得する。また、整形外科疾患の基礎知識については、グループでの調べ学習を取り入れ、学生同士の協働を通して理解を深める。
授業の目的（意義）
学生が、整形外科領域における作業療法の評価技術と治療技術を体系的に身につけ、臨床で求められる実践力を養うことを目的とする。さらに、疾患の概要を自ら調べ、仲間と共有する学習過程を通じて、臨床で必要となる知識の整理力・問題解決力を高めることに意義がある。
関連する学科の DP
DP3：OTとしての誇りを持ち、0から1をつくる挑戦の心を持っている DP4：心と身体を動かす技術を身につけている DP5：医療人としてのコミュニケーション能力を身につけ、多様な対象者に対応する力を持っている DP7：OTとして必要な知識を修得している。 DP8：OTとして学び続ける気持ちを持っている

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「オリエンテーション」 「骨折とは」 骨折の基礎的な概念（定義・分類・発生機序・治癒過程）を理解し、整形外科疾患に対する作業療法評価・治療を学ぶための基盤となる知識を身につける。	「骨折とは」 ・骨折の原因による分類を述べる ・骨折線による分類を列記する ・骨の解剖を理解する ・ハバース管、フォルクマン管について調べる ・骨折の治癒過程（炎症期・修復期・リモデリング期）を説明できる ・治療原則（RICE）とは何か述べる ・クリニカルパスについて述べる	角本裕之進
2			
3	「上腕骨骨折の作業療法②」 上腕骨骨折に対する作業療法の治療技術を理解し、臨床で必要となる介入方法を実践的に学ぶとともに、情報収集した内容を整理し、他者へ適切に報告できる能力を身につける	「上腕骨骨折の作業療法①」 ・上腕骨骨折の諸型を述べる ・各上腕骨骨折に合併する神経麻痺を述べる ・骨折後の機能障害を述べる ・ローテーターカフ、肩甲上腕リズム、インピンジメント徴候、関節上腕靭帯について調べる ・上腕骨骨折後の手術・固定法を述べる ・上腕骨骨折に関する評価内容を述べる	角本裕之進
4			
5	「上腕骨骨折の作業療法②」 ・上腕骨骨折における治療技術を修	「上腕骨骨折の作業療法②」 ・肩関節の基礎解剖・運動学（ローテーターカフ、	

6	得する ・情報収集した内容を理解し、他学生へ報告する技能を身につける	肩甲上腕リズム、インピンジメント徴候、関節上腕靭帯)について調べ、グループで発表できる。 ・ コッドマン体操の目的と方法を理解し、正しいフォームで模倣できる。 ・ ストップングエクササイズの目的と方法を理解し、基本的な手順に沿って実施でき	角本裕之進
7			
8			
9	「橈骨遠位端骨折の作業療法」 橈骨遠位端骨折に対する作業療法の評価と治療の基本的な知識・技術を理解し、臨床で必要となる介入の視点を身につけるとともに、評価内容を適切に記述・整理できる能力を養う	「橈骨遠位端骨折の作業療法」 ・ 橈骨手根関節および手根中央関節の構造と機能を説明できる。 ・ 橈骨遠位端骨折の種類・特徴、TFCC、手根骨の位置、CRPSについて調べ、グループで発表できる。 ・ ダーツスロー運動の目的と方法を理解し、正しく実施できる。 ・ 8の字法の測定手順を理解し、基本的な測定ができる。	角本裕之進
10			
11			
12			
13	「末梢神経損傷の作業療法」 末梢神経損傷の病態と各神経損傷の特徴を理解し、それに基づく作業療法の評価・治療技術を習得するとともに、臨床で必要となる介入の視点を身につける	「末梢神経損傷の理解」 ・ 腕神経叢の構造と走行を説明できる。 ・ 正中神経・尺骨神経・橈骨神経の支配筋を列記できる。 ・ 各神経の誘発テストを理解し、基本的な手順に沿って実施できる。 ・ 浮腫に対する包帯法の目的と方法を理解し、模倣できる。 ・ NGE（神経滑走）を学生同士で安全に実施できる。 ・ 末梢神経損傷の特徴と臨床での評価ポイントを説明できる。	角本裕之進
14			
15			
16			
17	「脊髄損傷の作業療法」 脊髄損傷の病態と残存レベルに応じた機能を理解し、それに基づく作業療法の基本的な評価・治療の視点を身につける	「脊髄損傷の作業療法」 ・ ザンコリの分類を説明できる。 ・ 脊髄ショックの症状を列記できる。 ・ 脊髄損傷の神経症状を調べ、特徴を説明できる。 ・ テノデーシスアクションの目的と機能を述べることができる。 ・ 車椅子の基本操作を模倣できる。 ・ 残存レベルとADLの関連を説明できる。 ・ 脊髄損傷の代表的な合併症を述べるができる。	角本裕之進
18			
19			
20			
21	「大腿骨頸部骨折の作業療法」 大腿骨頸部骨折の病態・治療過程を	・ 内側骨折、外側骨折の違いについて述べる ・ ガーデンの分類を説明できる	

22	理解し、急性期から生活期までの作業療法の役割を体系的に説明できるとともに、対象者の生活機能向上を目的とした作業療法プログラムを立案・実践できる能力を身につける	<ul style="list-style-type: none"> ・大腿骨頸部骨折の合併症を説明できる ・人工骨頭置換術と人工股関節置換術の違いについて列記する ・脱臼方向を述べる ・脱臼を予防した ADL 動作を模倣する 	角本裕之進
23			
24			
25	「疾患別作業療法の臨床推論」疾患別作業療法における臨床推論のプロセスを理解し、PBL (Problem Based Learning) を通じて、症例情報から問題点を抽出し、評価計画・治療方針・作業療法プログラムを論理的に構築できる能力を身につける	<ul style="list-style-type: none"> ・画像所見から予測される障害を調べ、仮説として整理できる。 ・予測した障害を確認するために必要な評価項目を挙げ、その選択理由を説明できる。 ・症例情報を ICF モデルに基づいて整理し、問題点を多角的に把握できる。 ・予測される障害に対する治療アプローチを、論文検索を用いて調べることができる。 ・得られたエビデンスをもとに作業療法目標 (短期・長期) を設定できる。 	角本裕之進
26			
27			
28			
29			
30	「まとめと試験」 整形外科疾患の作業療法を理解する	「まとめと試験」 <ul style="list-style-type: none"> ・整形外科疾患の作業療法について述べる ・各疾患の特徴、治療について列記する 	角本裕之進
成績評価方法		出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 整形外科疾患に対する作業療法について筆記試験 (100 点) を実施し、60 点以上を合格とする	
準備学習/事後学習		準備学習：骨折・靭帯損傷・変性疾患など、授業で扱う疾患の基礎知識をおさえておく 作業療法の評価項目について再確認しておく 事後学習：授業で扱った疾患について、評価から治療の過程を再確認しておく	
関連科目		解剖学 生理学 運動学 整形外科学 身体障害評価学 I・II	
その他 (履修者へのアドバイス等)		評価や治療の手順を覚えるだけでなく、「なぜこの評価をするのか」「なぜこの治療が必要なのか」を常に考えることが重要です。整形外科疾患は情報量が多いですがわからないときには教員に質問をして理解を深めていってください。	

学科・年次	作業療法科・2学年
科目名	日常生活活動学Ⅱ
担当者	山内 太郎
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義とグループワーク
教科書・参考書	日常生活活動（ADL）第2版<千住 秀明>

授業概要と目的
日常生活活動に関する評価法の種類を学び、治療的視点と生活支援的視点から日常生活活動について学ぶ。食事・更衣・排泄・整容・入浴といったADL指導の基本を身につける。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	日常生活活動とは何か？ADLの概念、QOLの概念。	一年次覚えた言葉を思い出すことができる ADLやQOLを説明することができる	山内 太郎
2	前期	ADL評価の方法について知る①	ADL評価方法を列挙することができる	山内 太郎
3	前期	ADL評価の方法について知る②	評価方法や評価の内容を確認する 評価方法の特徴と目的を確認する	山内 太郎
4	前期	基本動作について知る①	臥位姿勢～座位にかけて動作の種類を覚え、実際に自分の身体の動きで確認をする	山内 太郎
5	前期	基本動作について知る②	座位～立位にかけて動作の種類を覚え、実際に自分の身体の動きで確認をする	山内 太郎
6	前期	基本動作について知る③	歩行動作の種類を覚え、実際に自分の身体の動きで確認をする	山内 太郎
7	前期	複合動作について知る①	基本動作の応用について知る 日常生活動作について、方法と特徴を覚えることができる	山内 太郎
8	前期	複合動作について知る②	日常生活動作について、方法と特徴を覚えることができる	山内 太郎
9	前期	リハビリテーション支援機器について知識をつける①	リハビリテーション支援機器の種類を覚える 福祉用具を触り使い方を考えることができる	山内 太郎
10	前期	リハビリテーション支援機器について知識をつける②	講義を受け、機器や用具の特徴や対象疾患について覚えることができる 車椅子を操作することができる	山内 太郎
11	前期	自助具の作成	グループにて、対象をイメージした自助具を作成することができる	山内 太郎
12	前期	自助具の発表	作製した自助具の特徴をクラスメイトに向け発表することができる 発表を聞き質問することができる	山内 太郎
13	前期	中枢系神経疾患のADLについて	中枢神経疾患、神経筋疾患におけるADLの注	山内 太郎

		知る 神経筋疾患のADLについて知る	意点を聞き、動作方法を考えることができる 考えた動作方法について、クラスメイトに対し発表をすることができる	
14	前期	呼吸、循環障害、骨関節疾患のADLについて知る	各疾患における、ADLの注意点を聞き、ADL方法をイメージすることができる	山内 太郎
15	前期	まとめ・試験	講義を受けた内容を覚え直し、試験用紙に記入することができる	山内 太郎
成績評価方法		学んだ内容の発表又は筆記試験により評価を行う。(100点)		
準備学習など		自具等作成時、作成するものの材料について、各グループごとに準備をしてもらうため、次に何をやるかなどグループ間での共有が必要となる		

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	義肢装具学
担当者	川口 稚乃
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義・実技
教科書・参考書	義肢装具学

<p>授業概要と目的</p> <p>義手・スプリントの目的とその機能および構造を学ぶことで、対象者の状態に応じた適切な義手・スプリントの選択ができるようになることを目的とする。また、実際にスプリントの作製を通して作製手技を習得する。なお、本講義は手外科・マイクロサージャリーセンター勤務の作業療法士が担当する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「切断と義手」	<ul style="list-style-type: none"> ・切断部位 ・義手の種類 ・断端の管理 	川口 稚乃
2		切断部位と義手の種類およびその構造を知る。	切断部位による残存機能を理解し、適切な義手を選択することができる。また、義手の構造を知る。	
3	後期	「スプリント」	<ul style="list-style-type: none"> ・スプリントの種類 	川口 稚乃
4		スプリントの種類を知る。	スプリントの種類を知り、その目的と機能を理解する。	
5	後期	「骨折・腱損傷とスプリント」	<ul style="list-style-type: none"> ・各骨折・腱損傷のスプリント 	川口 稚乃
6		各骨折・腱損傷のスプリントを知り、PIP関節伸展位固定スプリントとDIP関節スタックスプリントを作製する。	各骨折・腱損傷のスプリントを知る。また、PIP関節伸展位固定スプリントとDIP関節スタックスプリントを作製できる。	
7	後期	「正中神経麻痺とスプリント」	<ul style="list-style-type: none"> ・正中神経麻痺のスプリント ・短対立スプリントの作製 	川口 稚乃
		正中神経麻痺のスプリントを知		

8		り、短対立スプリントを作製する。	正中神経麻痺の変形とスプリントを理解する。また、短対立スプリントを作製できる。	
9	後期	「橈骨神経麻痺とスプリント」	・橈骨神経麻痺のスプリント ・コックアップスプリントの作製	川口 稚乃
10		橈骨神経麻痺のスプリントを知り、コックアップスプリントを作製する。	橈骨神経麻痺の変形とスプリントを理解する。また、コックアップスプリントを作製できる。	
11	後期	「尺骨神経麻痺とスプリント」 尺骨神経麻痺のスプリントを知り、虫様筋カフを作製する。	・尺骨神経麻痺のスプリント ・虫様筋カフの作製 尺骨神経麻痺の変形とスプリントを理解する。また、虫様筋カフを作製できる。	川口 稚乃
12	後期	「リウマチとスプリント」 リウマチのスプリントを知り、リングメイトを作製する。	・ボタン穴変形、スワンネック変形、尺屈偏位のスプリント ・リングメイトの作製 リウマチの変形とその発生機序およびスプリントを理解する。また、リングメイトを作製できる。	川口 稚乃
13	後期	「熱傷、脳卒中、脊髄損傷とスプリント」	・熱傷、脳卒中、脊髄損傷のスプリント	川口 稚乃
14		各疾患のスプリントを知る。	各疾患のスプリントとその目的および機能を理解する。	
15	後期	筆記試験	・切断と義手 ・骨折・腱損傷とスプリント ・末梢神経麻痺とスプリント ・リウマチとスプリント ・熱傷とスプリント ・脳卒中とスプリント ・脊髄損傷とスプリント 義手・スプリントの機能および構造の理解度、ならびに上記疾患の目的を踏まえた適切な義手・スプリントの選択能力について筆記試験を通して確認する。	川口 稚乃
成績評価方法		出席回数が 2/3 以上であることを筆記試験の受験要件とする。 筆記試験は 60/100 点以上を合格とする。		
準備学習など		各疾患において想定される残存機能および変形を理解しておくことが望ましい。		

学科・年次	作業療法科・2年次
科目名	職業関連活動学
担当者	山内太郎
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	随時、授業資料を配布する

授業概要と目的
<p>発症・受傷後のリハビリテーション治療を終えると、就業可能な年齢の場合、社会復帰の課題が前面に現れてくる。特に作業療法士は医療職の中でも「就労支援」の役割を期待されおり、本講座では「人が働く」ことの意味から始め、障害を負った方がいかに就労するか、作業療法士の評価の視点、就労支援を行う際に必要な知識・技術、就労支援を取り巻く「社会制度」、現在の問題点、などについて講義を行う。授業を通して「就労支援」の概要を理解し、説明できるようになることを期待する。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「“職業”とは」 人が働くとはどういうことか、その意味について理解する。	職業とは何かをテーマに、グループの中で話し合うことができる 話し合った内容を全体に向けて、発表することができる	山内太郎
2	前期	職業とは、職業の分類・意義を理解する。 就労から職業生活継続のための活動について理解する	いろいろな職業があること知る。 グループにて、いくつかの職業について、調べることができる。	山内太郎
3	前期	いくつかの職種における職業の特性を理解する	グループで調べて職業の概要を調べることができる。調べた職業に必要な能力を挙げることができる。	山内太郎
4	前期	他のグループ発表を聞き複数の職業について理解をする	調べた職業について、他グループへ発表することができる。 他グループの発表を聞き、他の職業について知ることができる	山内太郎
5	前期	人の職業的発達について理解をする	発達段階に応じた職業的発達段階を知ることができる	山内太郎
6	前期	障害者の就労について、どのような意味がある理解することができる	障害者にとって職業とはどのような意味を持つのか、グループで話し合うことができる。 話し合った内容を全体に向けて発表することができる	山内太郎

7	前期	特別支援学校における就労教育について知る	特別支援学校で行う就労教育について話すことができる	山内太郎
8	前期	職業と福祉用具について①	最新の福祉用具危機を体験することができる①	山内太郎
9	前期	職業と福祉用具について②	最新の福祉用具危機を体験することができる②	山内太郎
10	前期	作業療法の実際 (身体障害分野)	身体障害分野における職業リハビリの実際を知ることができる	山内太郎
11	前期	作業療法の実際 (精神障害分野)	精神障害分野における職業リハビリの実際を知ることができる	山内太郎
12	前期	各疾患に対し職業復帰に向けた計画を立てることができる	グループにて、指定された疾患に対し職業復帰に向けた取り組みを考えることができる	山内太郎
13	前期	各疾患に対する職業復帰計画を発表できるようにまとめることができる	指定された疾患に対する職業復帰の取り組みを発表用にまとめることができる	山内太郎
14	前期	職業復帰計画を発表することができる	全体に向けて発表することができる	山内太郎
15	前期	まとめと試験	受けた講義の内容を理解し紙面における質問に答えることができる。	山内太郎
評価方法		筆記試験 100 点		
準備学習など				

学科・年次	作業療法科 2 学年	開講期間	通年
科目名	作業療法臨床能力演習		
担当者	山内太郎、角本裕之進、本多亜希子（作業療法士）		
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）	履修方法	実技、講義（一部）
教科書・参考書	各分野の教科書		

授業概要
作業療法臨床能力演習は、臨床現場で求められる評価技法である OSCE（客観的臨床能力試験）に基づき、実践的な学習を行う授業である。授業は、病院などで臨床経験を積んだ作業療法士が担当する。
授業の目的（意義）
この授業では、特に身体障害領域における作業療法評価技術を習得することを目的としている。学生が臨床で必要となる評価能力を身につけ、実践に即した技能を養うことに意義がある。
関連する学科の DP
<p>社会人として必要な礼儀・礼節を身につけている</p> <p>自分らしさを知って、相手を思いやる心を持っている（寄り添える・受け入れる・認める・相手の立場に立って考える）</p> <p>医療人としてのコミュニケーション能力を身につけ、多様な対象者に対応する力を持っている</p> <p>OT として必要な知識を修得している</p>

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	『OSCE とは』 OSCE（客観的臨床能力試験）とは何かを理解し、その目的・特徴・意義について説明できる。	「OSCE の目的」 ・ OSCE の定義を説明できる。 ・ OSCE の目的を述べるができる。 ・ OSCE の特徴を挙げて説明できる。 ・ OSCE の流れを述べるができる	山内太郎 角本裕之進 本多亜希子
2			
3	「OSCE の評価」 OSCE における評価項目を理解し、それぞれの内容と意義を説明できる。	・ OSCE の評価項目を列挙できる。 ・ 各評価項目の内容を説明できる。 ・ 評価項目が臨床能力のどの側面を測定しているか理解して述べるができる。 ・ OSCE の評価基準を踏まえて、自身の課題や改善点を整理できる。	山内太郎 角本裕之進 本多亜希子
4			
5	「OSCE 評価の実際」 OSCE 評価の実際を理解し、見学および模倣を通して評価の進め方とポイントを把握できる	・ 関節可動域測定・徒手筋力検査・BRS などの主要な評価技法を見学し、目的と手順を理解できる。 ・ 反射検査・失調検査・バランス検査・視野検査の実施場面を観察し、評価のポイントを説明できる。 ・ 各検査の技法が臨床でどのように活用されるかを理解し、基本的な評価視点を身につける	山内太郎 角本裕之進 本多亜希子
6			
7			
8			
9			
10			
11	「OSCE 演習・試験・まとめ」 OSCE で扱われる各種診察技法・	「主要な評価技法の理解」 ・ 関節可動域測定・徒手筋力検査・BRS	山内太郎 角本裕之進

12	コミュニケーション技法・手技を、適切な態度・知識・技能に基づいて実践し、患者中心の医療を提供できる能力を身につける	<p>(Brunnstrom Recovery Stage) 各技法の目的・適応・基本手順を説明できる。</p> <p>「神経学的評価の観察と説明」</p> <p>・ 反射検査・失調検査・バランス検査・視野検査の実施することができる</p> <p>「臨床での活用理解」</p> <p>・ 学習者は、各評価技法が臨床でどのような判断に結びつくかを説明できる</p>	本多亜希子
13			
14			
15			
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 実技試験（100 点）を実施し、60 点以上を合格とする。		
準備学習/事後学習	準備学習：身体障害評価学で学習した内容を理解しておくこと 事後学習：臨床実習に向けて技術の復習を行っておく		
関連科目	身体障害評価学 I 身体障害評価学 II 臨床実習		
その他（履修者へのアドバイス等）	この授業は、将来の臨床に直結する“実践力”を育てる科目です。評価技法は、頭で覚えるよりも、実際にやってみることで理解が深まりますので、何度も復習することが大切です。また評価技法を覚えるだけでなく、「患者を理解するための視点」を身につけることも重要です		

学科・年次	作業療法科 2 学年
科目名	作業療法臨床研究 I
担当者	本多 亜希子 角本裕之進
単位数 (時間数)	2 単位 (30 時間)
学習方法	実習で学んだことをまとめ発表する
教科書・参考書	各分野の教科書

授業概要と目的
<p>実習を通して学んだことを臨床現場で規定以上の経験年数を持つ作業療法士の教員と学生の前で発表をする。発表の内容から質疑応答を交え、実習で学んだ経験をより深めていき、他の学生の症例発表を聞き経験していない症例も学ぶことができる。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1~5 回 (15 コマ)	後期	「症例発表」 体験実習で学んだ事をより深く認識することができ、経験していない症例の評価も習得できる。	<ul style="list-style-type: none"> 臨床現場で経験した評価内容をまとめ、授業内で発表する。 質疑応答を設けることで、自分自身でも気付かなかった事や発表で出てない内容を再認識することができる。 他の学生の発表を聞くことで、経験していない症例を推論できる。 教員からのコメントを参考に、知識を広げる。 	本多亜希子 角本裕之進
成績評価方法		<ul style="list-style-type: none"> 発表の内容 (質・声の大きさ・資料の見やすさなど) 質疑応答の頻度や内容を評価する。 100 点満点		
準備学習など		実習で学んだことを復習しておく		

学科・年次	作業療法科 2年次	開講期間	通年
科目名	地域リハビリテーション学		
担当者	東久也 美保良典 野々山拓史		
単位数（時間数）	2単位（60時間）	履修方法	講義・実技
教科書・参考書	配布資料		

授業概要
本授業では、地域リハビリテーションの考え方と実践について、作業療法士の役割を中心に学ぶ。自動車運転支援、発達領域支援、就労支援などの具体的な支援場面を通して、医療・福祉・教育・労働分野における地域連携の実際を理解する。また、地域包括ケアシステムや社会保障制度、各病期における作業療法の実践を踏まえ、地域で生活する人々を多職種と協働して支えるための基礎的な知識と視点を身につける。
授業の目的（意義）
本授業は、地域で生活する人々の健康と暮らしを支えるために、作業療法士が果たすべき役割と視点を理解することを目的とする。医療機関内にとどまらず、地域・多機関・多職種と連携しながら支援を行うために必要な知識と考え方を学び、地域リハビリテーションの実践に対応できる基礎的能力を養う。なお本講義は臨床経験のある作業療法士が講義を行う
関連する学科の DP
DP7：作業療法士として必要な知識を修得している DP8：作業療法士として学び続ける気持ちを持っている DP9：多職種と連携・協働できる知識を身につけている

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SB0s)	担当者
1	「運転支援」① 自動車運転という作業について知る	①作業療法士がなぜ運転支援に関わるのか述べることができる ②運転という作業の意義や重要性を述べるができる	東久也
2	「運転支援」② 交通事故に関連する基本知識について知る	①高齢者に多い交通事故の原因や特徴を述べるができる ②危険予知能力について理解する	東久也
3	「運転支援」③ 自動車運転に関連する法制度について知る	①道路交通法の変遷および具体的な内容を理解する ②運転支援を要する疾患について述べるができる	東久也
4	「運転支援」④ 急性期における運転支援について知る	①急性期における運転評価について理解する ②急性期における運転支援の注意点を理解する	東久也
5	「運転支援」⑤ 回復期・外来における運転支援について知る	①回復期・外来における運転評価について理解する ②回復期・外来における運転支援の注意点を理解する	東久也
6	「運転支援」⑥ 運転支援に関わる身体機能および評価について知る	①運転姿勢のポイントを理解する ②運転に必要な視機能について理解する	東久也
7	「運転支援」⑦ 運転支援に関わる高次脳機能お	①運転に重要な高次脳機能を述べるができる ②J-SDSAを実施する技能を習得する	東久也

	よび評価について知る		
8	「運転支援」⑧ 実車教習について知る	①校内教習と路上教習の違いを理解する ②作業療法士と教官の役割の違いを理解する	東 久也
9	「発達領域の地域支援①」 発達領域における地域リハビリテーションの必要性和背景を理解する。	① 地域リハビリテーションへ移行してきた背景としての福祉・教育制度（特に特別支援教育・合理的配慮等）について説明できる	美保 良典
10	「発達領域の地域支援②」 発達領域における地域リハビリテーションの連携システムを理解する	①ライフステージに応じた地域支援システムとそれを支える法律・施策について説明できる ② 乳幼児期・学齢期・青年期の地域支援システムを説明できる	美保 良典
11	「発達領域の地域支援③」 一般病院における発達領域の外来作業療法の役割や業務内容を理解する。	①発達が気になる子どもを取り巻く地域の受診・支援の流れを説明できる。 ②一般病院が小児発達支援において担う役割を説明できる。 ③一般病院における小児発達領域の外来作業療法の役割と具体的な業務について説明できる。	美保 良典
12	「発達領域の地域支援④」 重症心身障がい児デイサービスにおける作業療法の役割や業務内容を理解する。	①重症心身障がい児デイサービスの役割と全般的な業務内容を説明できる。 ②重症心身障がい児デイサービスにおける作業療法の役割と具体的な業務内容について説明できる	美保 良典
13	「発達領域の地域支援⑤」 重症心身障がい児デイサービスにおける利用児の特性、地域生活を踏まえた活動内容を立案できる。	①講師が提示した事例の特性を整理できる。 ②利用児の状態に応じた活動内容を立案できる。 ③グループ内で意見交換を行い、活動案をまとめることができる。	美保 良典
14	「発達領域の地域支援⑥」 作成した活動案を発表し、他者の考えを理解する。	①作成した活動案を発表できる。 ②他者の発表を踏まえ、考えを理解する。 ③講義全体を振り返り、小児領域における地域作業療法の特徴を説明できる。	美保 良典
15	「オリエンテーション」 「働くことの意味」 「就労支援とは」 働くことを理解し、障害者の視点で起こりうる問題や難しさを知る。 医療機関や就労支援機関で行われる就労支援の全体像を知る。	・作業療法における「仕事」という作業を知る ・就労とQOLとの関係性を理解する ・障害者の就労の現状を理解する ・就労支援の全体像を理解する	野々山拓史
16	「障害者に生じる就労場面での課題や問題を考える」 グループワークを通して障害者が就労・復職することについて思考し、難しさを理解する。	・グループワークを通して、就労することに関する意見や考え方を述べ、他者の意見を受け入れる。 ・障害者の雇用に生じる問題を述べる ・個人や病院単体での支援のみでは支援が難しいことを理解する。	野々山拓史
17	「就労支援に関わる法律・制度」 障害者の雇用に関わる法律や制度を理解し、就労支援に必要な知	・障害者総合支援法を理解する ・障害者雇用促進法を理解する ・障害者差別解消法を理解する	野々山拓史

	識を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者雇用率制度を理解する ・職場における合理的配慮に関して理解する。 	
18	「就労支援機関と社会資源」 地域に存在する障害福祉サービスを理解して、医療機関との関係性を把握する。就労支援を行う際に、適切な障害福祉サービスの選択が出来る能力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援の流れを理解する ・支援機関（ハローワーク、地域障害者職業センター、障害者職業・生活支援センター）について理解する ・障害福祉サービス（就労移行支援、就労継続支援 A 型、就労継続支援 B 型、就労定着支援）について理解する 	野々山拓史
19	「作業療法士が担う就労支援」 就労支援の中で作業療法士が担う役割や訓練・評価方法を理解し、対象者へ提供できる能力を養う	<ul style="list-style-type: none"> ・職業準備性に関して説明できる ・職業準備訓練に関して説明できる ・高次脳機能障害の就労支援に関して説明できる ・就労支援プログラムを説明できる 	野々山拓史
20	「事例検討」 事例を通して具体的な支援方法や就労支援機関とのシームレスな連携方法を知る。実践的な思考力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・身体機能障害および高次脳機能障害の就労支援に関して説明できる ・状況に応じた評価や訓練、就労支援機関の選択を述べる ・多職種、多施設連携の重要性を理解する 	野々山拓史
21	「地域リハビリテーションの背景と 2040 年問題」	2040 年問題（生産年齢人口の急減）と地域共生社会の理念を理解し、地域リハの定義と OT の職域の広がり学ぶ	東 久也
22	「社会保障制度と介護保険の変遷」	社会保障制度の概論と、介護保険制度の創設から 20 年以上の経過、最新の改正の経緯を理解する	東 久也
23	「各病期の実際①」 医療機関での作業療法の実際	急性期・回復期リハの役割と、在宅復帰の拠点となる地域包括ケア病棟・地域医療病棟での OT の役割（家屋評価等）を学ぶ	東 久也
24	「各病期の実際②」 訪問リハビリテーションの実際	医療機関からの訪問リハと、訪問看護ステーションから出向する訪問リハの位置づけや役割の違いを具体的な事例から学ぶ	東 久也
25	「各病期の実際③」 通所・入所・外来リハビリテーションの実際	老人保健施設（老健）、通所リハ（デイケア）、通所介護（デイサービス）の違い、および外来リハビリテーションの現状を整理する	東 久也
26	「地域包括支援①」 地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムの 4 つの要素（自助・互助・共助・公助）と、高齢者の自立支援を多職種の専門的な視点で支える仕組みを学ぶ	東 久也
27	「地域包括支援②」 支援センターと IPW	地域包括支援センターの具体的業務（権利擁護・総合相談等）を理解し、多職種連携（IPW）における OT の具体的な貢献方法を学ぶ	東 久也
28	「地域ネットワークと多職種連携」	社会福祉協議会、民生委員・NPO 法人等の役割を学び、地域全体で対象者を支えるネットワーク構築の重要性を理解する	東 久也
29	「人生 100 年時代の健康とフレイル予防」	フレイル・オーラルフレイルの状態を理解し、地域での栄養管理や口腔機能向上に向けた OT の関わりを学ぶ	東 久也
30	「地域支援事業と OT のキャリアパス」	市町村の地域支援事業（リハ職派遣等）の実際を学び、病院・施設・地域と多様化する OT の将来像を展望する	東 久也

成績評価方法	筆記試験
準備学習/事後学習	<p>準備学習（事前学習） 各回の授業内容に関連する基礎知識（疾患・制度・地域支援の概念等）について、これまでに学習した内容を復習して授業に臨むこと。</p> <p>事後学習（事後学習） 授業で学んだ内容を振り返り、作業療法士として地域で果たす役割について整理する。必要に応じて配布資料や関連事項を復習し、理解を深めること。</p>
関連科目	<p>身体障害治療学Ⅰ</p> <p>身体障害治療学Ⅱ</p> <p>精神障害治療学Ⅰ</p> <p>精神障害治療学Ⅱ</p> <p>発達障害治療学</p>
その他（履修者へのアドバイス等）	本授業では、地域で生活する人々を支える作業療法士の役割について幅広く学びます。講義や演習を通して、現場をイメージしながら主体的に考える姿勢を大切にして受講してください。

学科・年次	作業療法科・2年次
科目名	生活環境学
担当者	山内太郎
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義、実技、グループワーク
教科書・参考書	サブノート

<p>授業概要と目的</p> <p>入院日数が短縮され早期退院傾向にある今日、地域医療の拡充が求められている。作業療法士も地域における活躍が期待されているが、住宅改修について基本的な知識を有しておくことは必須となっている。</p> <p>本講義では下記①～③を主に学び知識を深めていく。</p> <p>①住宅改修を中心に、対象者の生活を取り巻く環境についてどのようなことに留意すべきか教科書・サブノートを使って学習し、生活環境に関する基礎的な知識の習得を目指す。</p> <p>②近年話題になっている障害者eスポーツについて触れ、障害者が健常者と同等の自由を営む権利を有していることを知り、作業療法士が環境を調整することで対象者の人生の質を向上させることができることを体験を通し理解する。</p> <p>③多職種連携の必要性を学び、現場で活動する際に各職種の考え方を理解した上でカンファレンスに臨めるように体験を通し理解する。なお作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「総論」 生活環境とは何か、定義とリハビリテーションにおける生活環境の位置づけを理解する。	「生活環境論とは」 ・国際生活機能分類における生活機能について説明できる。 ・生活に関与する環境因子について説明できる。	山内太郎
2	前期	「住環境整備①」 住宅内の玄関／廊下／建具／照明／寝室／リビング／浴室／トイレにおける環境整備の考え方を理解する。	「玄関／廊下／建具／照明／寝室／リビング／浴室／トイレ」 ・具体的な整備対策を説明できる。	山内太郎
3	前期	「住環境整備②」 車いす／廊下／建具／照明の設置について理解する。	「車いす／廊下／建具／照明」 ・具体的な整備対策を説明できる。	山内太郎
4	前期	「住宅の見取り図」 家屋改修する上で、家屋状況を図面に落とすことで回収の幅が広がることを理解する	「見取り図の作成」 ・自宅の見取り図を図面に落とすことができる。 ・図面に家具や動線を描くことができる。	山内太郎
5	前期	「福祉用具と障害別住宅改修例①」 住環境整備に関する福祉用具と実際の住宅改修例を理解する。	「住宅改修①グループ活動」 ・授業で作成した図面を用い、症例の家屋改修案を検討することができる。	山内太郎

6	前期	「福祉用具と障害別住宅改造例②」 住環境整備に関する福祉用具と実際の住宅改造例を理解する。	「住宅改修②グループ活動」 ・クラス全体に対し、グループで検討した家屋改修案を発表することができる。 ・他グループの発表を聞き、症例や家屋の違いによる方法の違いが出ることを知る。	山内太郎
7	前期	「障害者と余暇活動①」 障害者にも健常者と同じように人生を楽しむ権利があることを理解する	「ゲームを通じた障害者体験の実施」 健常者との違いについて述べるができる。	山内太郎
8	前期	「障害者と余暇活動②」 障害者にも健常者と同じように人生を楽しむ権利があること知り、工夫をすることで楽しみ活動を継続できることを知る	「障害者への対応策①」 ・各疾患に対し、どのように環境設定をすれば、健常者と同じように遊べるか案を出すことができる ・環境設定をする上で準備しなければならない物品を列挙することができる。	山内太郎
9	前期	「障害者と余暇活動③」 障害者にも健常者と同じように人生を楽しむ権利があること知り、工夫をすることで楽しみ活動を継続できることを知る	「障害者への対応策②」 ・対応策①で考えた案を形にすることができる。 ・形にしたものを使ってゲームをすることができる。	山内太郎
10	前期	「障害者と余暇活動④」 発表を通し、方法は1つではないことを知る。	「障害者への対応策③実演」 ・クラスに向けてグループ毎に自分たちが考えた対応策を発表することができる。 ・他グループの発表を聞き、自分たちとの違いを考察できる	山内太郎
11	後期	「多職種連携①」 視覚教材を用いて評価を行い、作業療法視点での問題列挙や目標設定することができる。	「症例情報の収集・把握」 事例を通して作業療法を行うにあたり必要な情報を収集・評価し、目標を設定することができる。	山内太郎
12	後期	「多職種連携②」 カンファレンスの模擬的な場面を通して多職種協働を体験し、それぞれの専門領域の観点から事例について対応方法を共有することができる。	「模擬場面を通じた多職種連携」 看護、理学療法、作業療法の各学科の学生がそれぞれの専門領域の観点から事例について得た情報や評価を共有し、チームとしての目標を設定することができる。	山内太郎
13	後期	「多職種連携③」 視覚教材を用いて対象者の再評価を行い、チーム間で目標の再設定ができる。	「ゴール設定の修正」 チーム間で設定した目標の達成が困難な状況について、分析し目標の再設定ができる。	山内太郎
14	後期	「多職種連携④」 他学生が同じ症例に対してどのような評価や目標設定をしたのかを知ることで、チーム医療における作業療法士の役割や各職種間の連携の在り方について理解を深める。	「多職種連携」 症例を通して各チームで評価したことや目標設定について、他グループと討議し、考察することで理解を深めることができる。	山内太郎

15	後期	「まとめと試験」 本講義の概略を説明し、理解度を確 認する。	各講義の重要ポイント及び理解度について 国家試験の過去問題などを利用して書面で 説明できる。	山内太郎
成績評価方法		出席点、科目試験、多職種連携についてのレポートにて成績評価する。 合計 100 点		
準備学習など		なし		

学科・年次	作業療法科・2学年
科目名	地域作業療法学
担当者	山内 太郎
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義とグループワーク
教科書・参考書	指定する教科書はないが、生活環境論などの本は参考となる

<p>授業概要と目的</p> <p>地域における作業療法の仕事を理解する。 作業療法士の視点に立ち、住環境と患者像を照らし合わせ、環境整備及び治療方針を検討する。 なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	パーソン センタード ケアという言葉を知る	対象者を観る際の一つの方法として、パーソン センタード ケアという方法があるということを知ることができる	山内 太郎
2	前期	地域作業療法とは何かを知る①	地域作業療法という言葉のイメージを持つことができる	山内 太郎
3	前期	地域作業療法とは何かを知る②	地域作業療法の歴史について知ることができる	山内 太郎
4	前期	社会資源について知る①	どういったものが社会資源となるのかを知ることができる	山内 太郎
5	前期	社会資源について知る②	社会資源の活用方法について考えることができる	山内 太郎
6	前期	ケアマネジメント・アセスメントについて知る	ケアマネジメントとアセスメントの違いをこたえることができる	山内 太郎
7	前期	病院と地域作業療法について知る①	地域における病院の機能について答えることができる①	山内 太郎
8	前期	病院と地域作業療法について知る②	地域における病院の機能について答えることができる②	山内 太郎
9	前期	介護老人保健施設と地域作業療法について知る①	介護老人保健施設と地域作業療法について答えることができる①	山内 太郎
10	前期	介護老人保健施設と地域作業療法について知る②	介護老人保健施設と地域作業療法について答えることができる②	山内 太郎
11	前期	特別養護老人ホームにおける地域作業療法について知る	特別養護老人ホームにおける地域作業療法について答えることができる	山内 太郎
12	前期	通所介護（デイサービス）における地域作業療法について知る	通所介護（デイサービス）における地域作業療法について答えることができる	山内 太郎
13	前期	病院・施設での作業療法について	グループで調べたことを全体に向けて発表す	山内 太郎

		発表する。①	ることができる①	
14	前期	病院・施設での作業療法について発表する。②	グループで調べたことを全体に向けて発表することができる②	山内 太郎
15	前期	まとめ・試験	講義を受けた内容を覚え直し、試験用紙に記入することができる	山内 太郎
成績評価方法		出席状況・授業態度・課題提出・グループ発表・試験により評価を行う。		
準備学習など		各グループごとに準備をしてもらうため、次に何をするかなどグループ間での共有が必要となる		

学科・年次	作業療法科 2 学年
科目名	臨床実習Ⅱ
担当者	本多亜希子、山口冨香、角本裕之進（作業療法士）
単位数（時間数）	6 単位（270 時間）
学習方法	実習
教科書・参考書	各分野の教科書

<p>授業概要と目的</p> <p>病院や施設の役割や機能、作業療法士の業務を学ぶ。臨床実習指導者の指導・監督のもとに臨床技能を模倣・実施する。なお臨床経験 5 年以上で臨床実習指導者講習会を修了した作業療法士が指導を行う。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
15 日間 2 施設	後期	<p>「評価実習」</p> <ul style="list-style-type: none"> 各臨床実習施設における作業療法および作業療法士の役割と機能を学ぶ。 臨床実習指導者の指導・援助のもとに、実習生が対象児・者を全体的に把握するために必要な評価方法を選択し、模倣・実施する。 作業療法を学ぶ学生としての基本的態度を習得し、作業療法士としてふさわしい資質の向上・充実をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象者や他部門から必要な情報を収集できる。 評価技法の選択、実施ができる。 全体像を把握し問題点を抽出することが出来る。 評価中、安全性を確保できる。 長期目標・短期目標を設定することができる。 治療計画を立てることができる。 各提出物が期限内に提出することができる。 記述、口頭での報告が適切にできる。 施設における部門の役割について理解することができる。 実習に対して意欲的、積極的に学習できる。 職場内での人間関係を円滑に保つことができる。 日常の規律を自覚し、守っていく態度をとれる。 感情、情緒面で安定した態度をとれる。 目標達成を目指して意欲的に努力することができる。 対象者の人権を尊重できる。 守秘義務を守ることができる。 対象者との関係を成立させることができる。 対象者に対して安全性を配慮できる。 緊急時又は問題解決ができない時に援助 	本多亜希子 山口冨香 角本裕之進

			を求めることができる。	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者からの評価表を参考（80%）にし、出席・デイリーノート・症例報告書・実習態度など（20%）で評価する。合計 100 点。 			
準備学習など	<ul style="list-style-type: none"> 実習までの授業をしっかり習得すること 評価内容の実技を覚えていくこと コミュニケーション能力を高めておくこと 			